

市内地域公共交通に関する検討調査

市内移動手段に関するアンケート調査結果

【目次】

4. 市内移動手段に関するアンケート調査結果	1
4.1 実施の概要	1
4.2 回答者特性(属性)	2
4.3 日常生活の行動パターン(問1)	7
4.4 送迎について(問2)	18
4.5 バス利用について(問3)	20
4.6 今後のバスサービスのあり方について(問4)	23
4.7 市内循環バスの位置づけや運営について(問5)	25
4.8 新たな公共交通サービスについて(問6)	28

パシフィックコンサルタンツ(株)

平成23年8月

4. 市内移動手段に関するアンケート調査結果

4.1 実施の概要

(1) 調査概要

【調査対象】 下記の条件に当てはまる市内在住者（平成 23 年 4 月 1 日住民基本台帳）から 5,000 人を無作為抽出

- ・ 年齢：15～75 歳
- ・ 地域別の抽出比率は、地区別人口比率による
- ・ 外国人、横田基地居住者、特別養護老人施設入所者は対象外

【調査期間】 平成 23 年 5 月 18 日（水）発送、6 月 3 日（金）投函〆切

【実施方法】 調査対象者に対してアンケート票を郵送配布し、郵送にて回収

(2) 回収結果

①	②	①/②	有効回答数
配布数	回収数	回収率	
5,000	1,457	29%	1,456

※平成 23 年 6 月 21 日到着分まで含めた。

- ・ 全体の回収率は約 29%と、郵送配布・回収式としては高い傾向である。
- ・ 回収状況を町丁目別にみたものが下表で、相対的に中藤は回収率が高く、緑が丘は低くなっている。

町名	配布数	回収数	回収率	町名	配布数	回収数	回収率	町名	配布数	回収数	回収率
本町一丁目	80	32	40.0%	中藤一丁目	40	14	35.0%	神明一丁目	49	14	28.6%
本町二丁目	93	28	30.1%	中藤二丁目	12	5	41.7%	神明二丁目	92	24	26.1%
本町三丁目	37	6	16.2%	中藤三丁目	38	19	50.0%	神明三丁目	63	23	36.5%
本町四丁目	38	10	26.3%	中藤四丁目	46	16	34.8%	神明四丁目	70	17	24.3%
本町五丁目	16	4	25.0%	中藤五丁目	43	13	30.2%	神明計	274	79	28.8%
本町六丁目	3	1	33.3%	中藤計	179	67	37.4%	中央一丁目	56	15	26.8%
本町計	267	83	31.1%	大南一丁目	297	82	27.6%	中央二丁目	85	23	27.1%
伊奈平一丁目	20	4	20.0%	大南二丁目	183	53	29.0%	中央三丁目	65	21	32.3%
伊奈平二丁目	30	11	36.7%	大南三丁目	258	70	27.1%	中央四丁目	33	12	36.4%
伊奈平三丁目	21	5	23.8%	大南四丁目	147	43	29.3%	中央五丁目	0	0	-
伊奈平四丁目	65	17	26.2%	大南五丁目	126	55	43.7%	中央計	239	73	30.5%
伊奈平五丁目	142	39	27.5%	大南計	1011	308	30.5%	三ツ木一丁目	76	23	30.3%
伊奈平六丁目	78	31	39.7%	学園一丁目	163	49	30.1%	三ツ木二丁目	62	13	21.0%
伊奈平計	356	110	30.9%	学園二丁目	32	6	18.8%	三ツ木三丁目	60	26	43.3%
岸一丁目	96	19	19.8%	学園三丁目	92	28	30.4%	三ツ木四丁目	0	0	-
岸二丁目	45	20	44.4%	学園四丁目	120	35	29.2%	三ツ木五丁目	69	13	18.8%
岸三丁目	62	16	25.8%	学園五丁目	33	4	12.1%	三ツ木計	267	75	28.1%
岸四丁目	0	0	-	学園計	440	122	27.7%	榎一丁目	0	0	-
岸五丁目	4	1	25.0%	中原一丁目	72	19	26.4%	榎二丁目	103	28	27.2%
岸計	207	59	28.5%	中原二丁目	145	49	33.8%	榎三丁目	72	21	29.2%
残堀一丁目	77	22	28.6%	中原三丁目	83	24	28.9%	榎計	175	49	28.0%
残堀二丁目	65	17	26.2%	中原四丁目	21	4	19.0%	三ツ藤一丁目	155	41	26.5%
残堀三丁目	0	0	-	中原五丁目	0	0	-	三ツ藤二丁目	67	22	32.8%
残堀四丁目	112	34	30.4%	中原計	321	97	30.2%	三ツ藤三丁目	113	21	18.6%
残堀五丁目	148	39	26.4%					三ツ藤計	335	87	26.0%
残堀計	402	114	28.4%					緑が丘計	527	111	21.1%
								総合計	5000	1456	29.1%

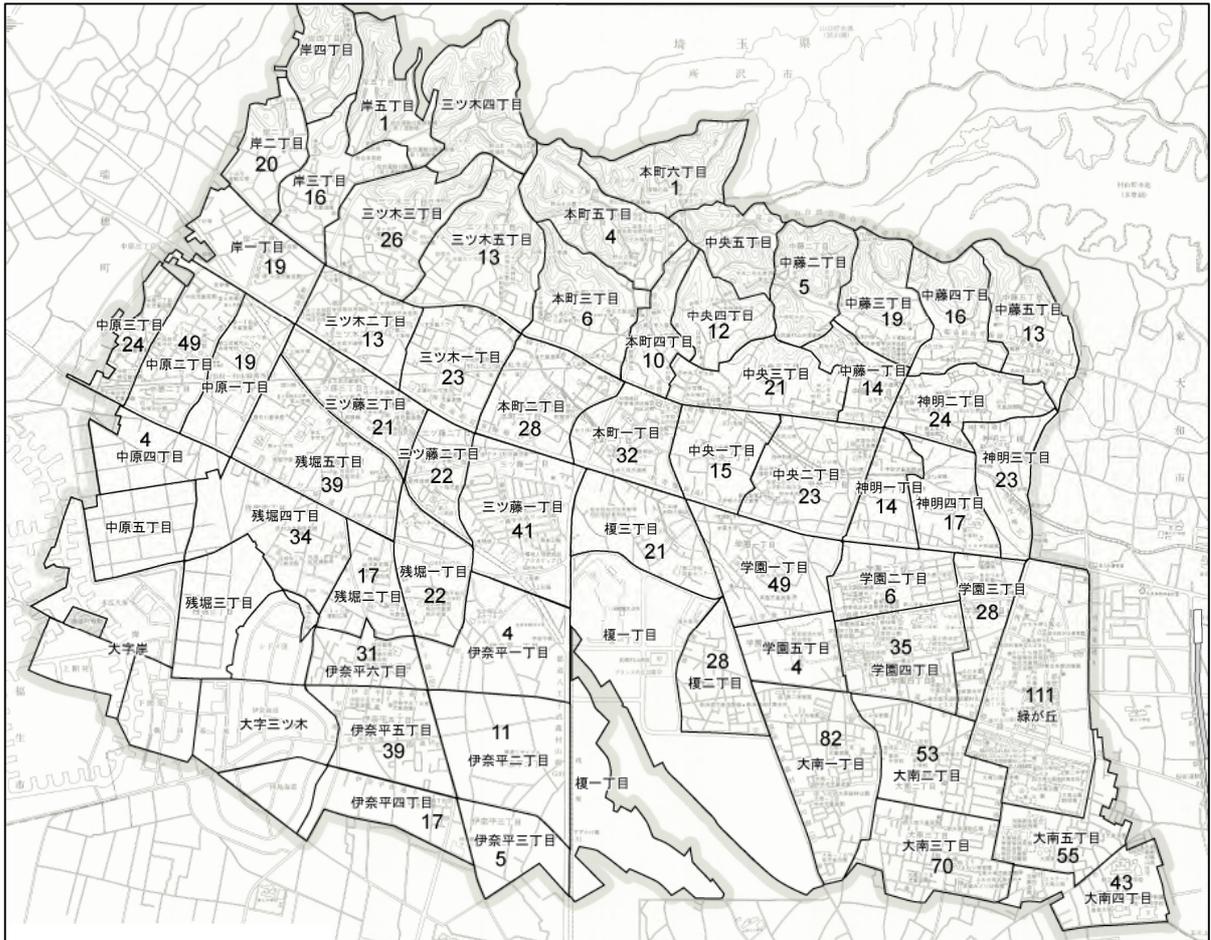
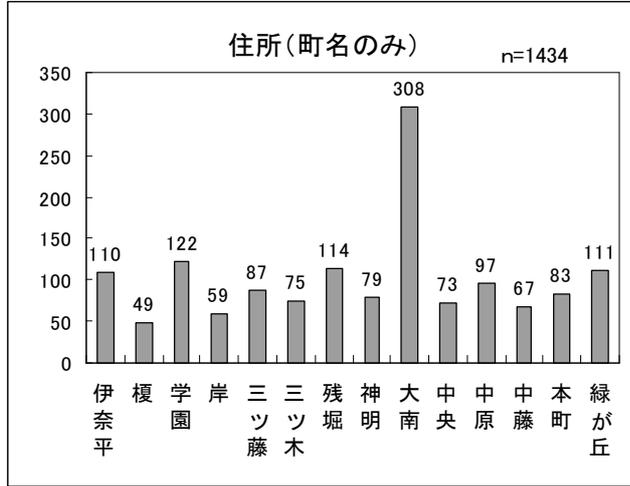
※丁目不明の回答もあるため、各町の計と、全丁目の合算値が一致しない場合がある。

※総合計は各町の計の合算値である。

4.2 回答者特性(属性)

(1) 住所

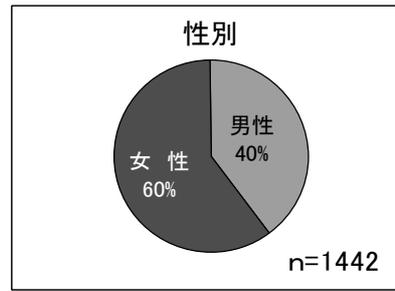
・回答者は、大南が最も多く全体の2割強を占めている。



▲町丁目別回答者数

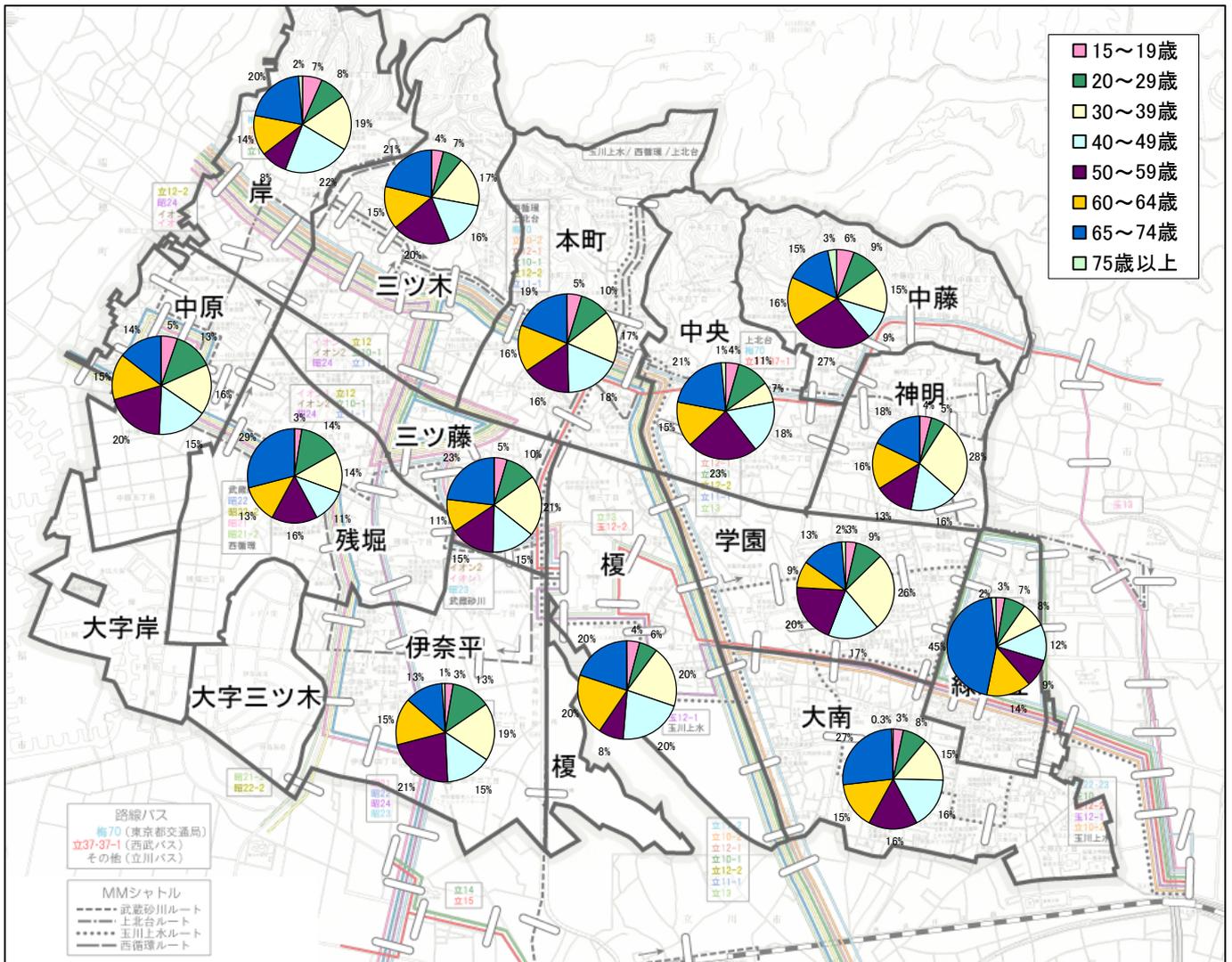
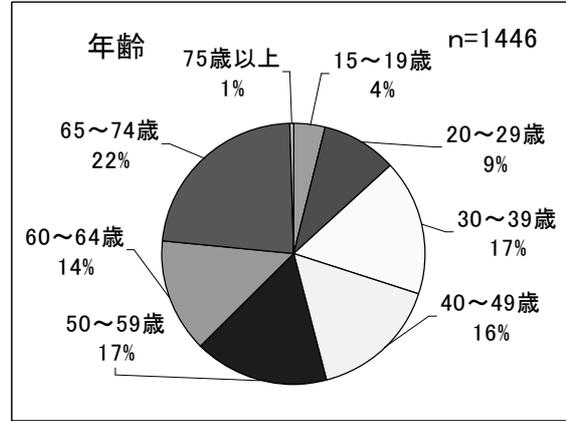
(2) 性別

- ・女性の割合が6割となっている。



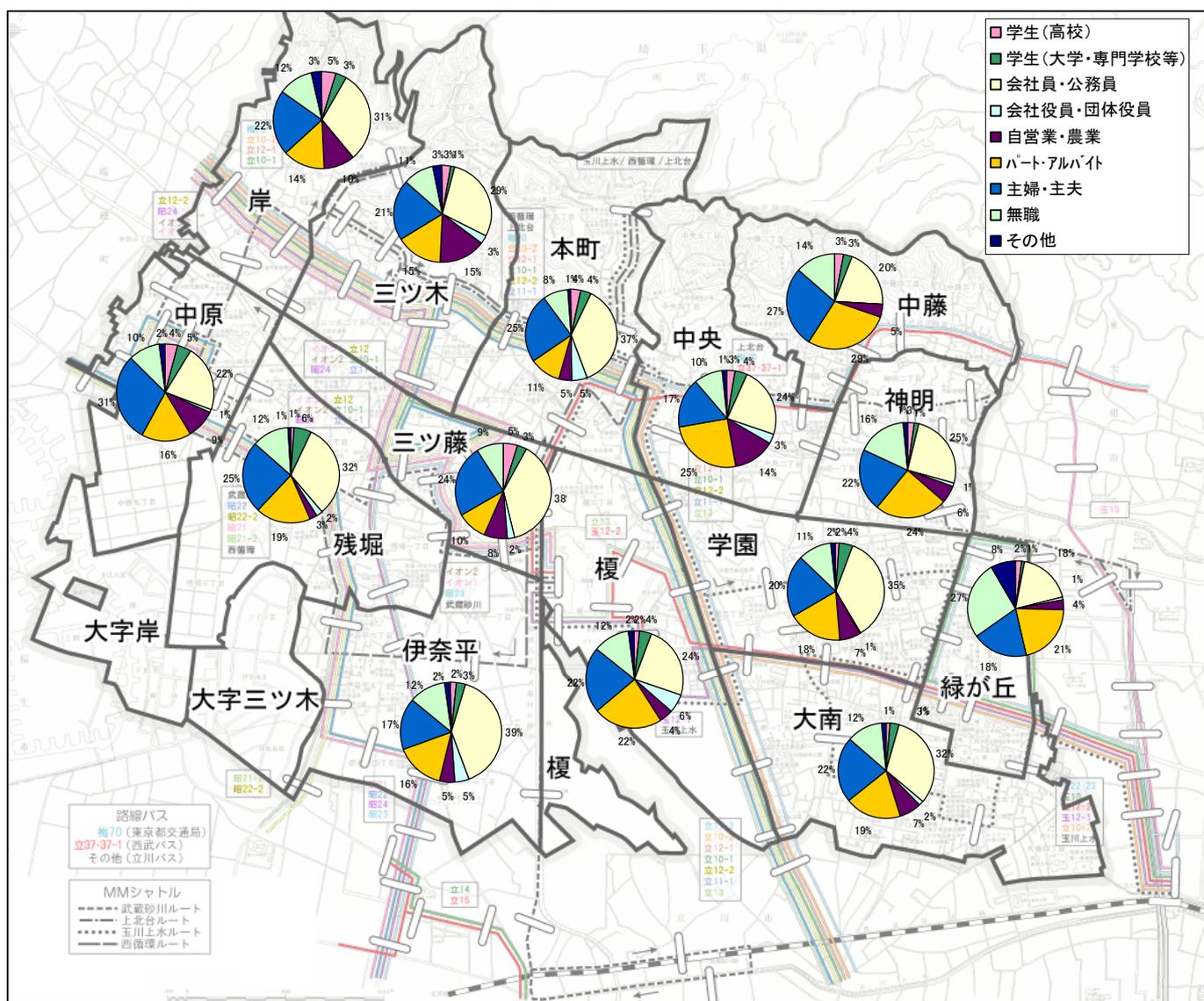
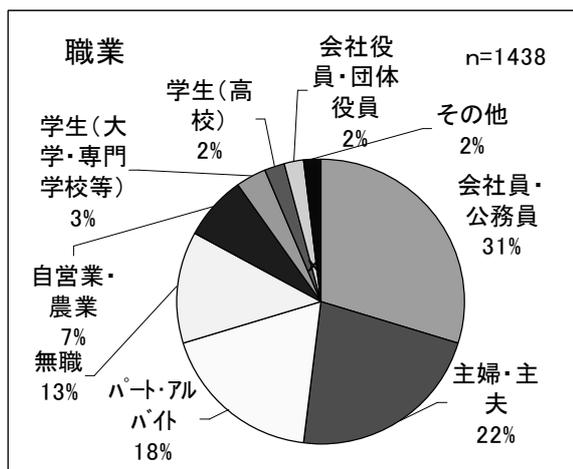
(3) 年齢

- ・30歳代、40歳代、50歳代は概ね同程度で15～20%ずつを占め、60歳以上が約4割を占めている。
- ・なお、抽出対象者は抽出時点で75歳以下としている。
- ・居住地別にみると、緑が丘、残堀、大南などでは65歳以上が比較的多くなっており、岸、学園、神明などは50歳未満の比較的若い世代が多くなっている。



(4) 職業

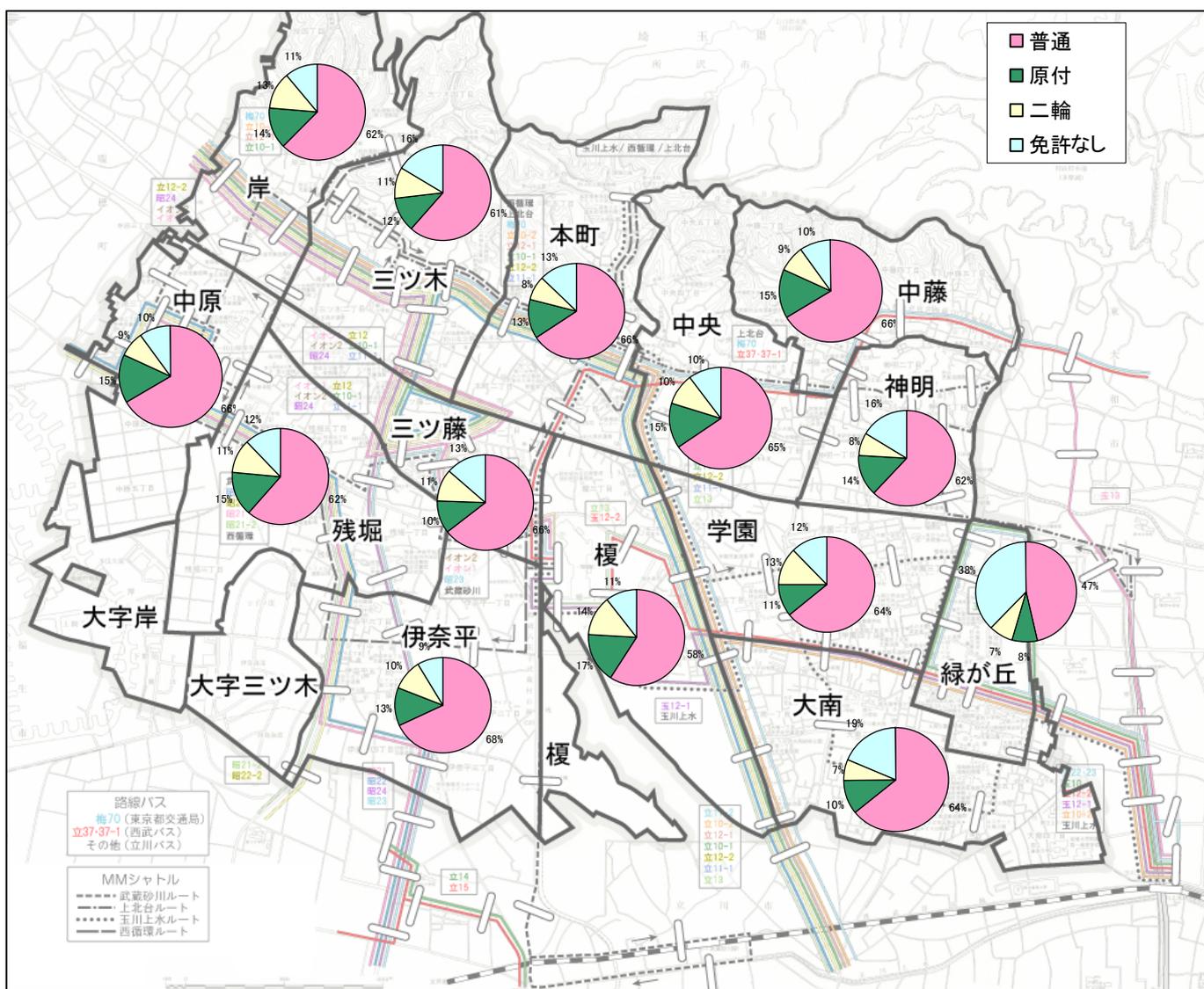
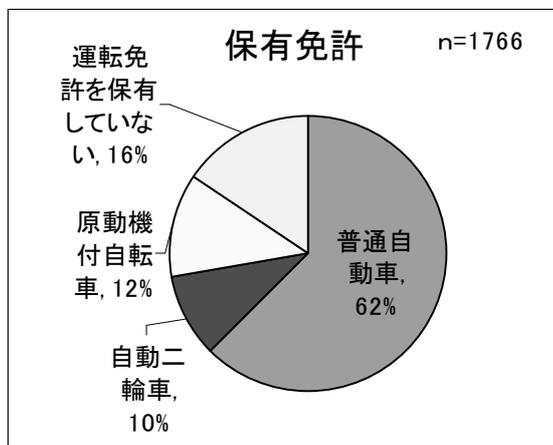
- ・職業で多いのは「会社員・公務員」で、次いで「主婦・主夫」、「パート・アルバイト」となっている。
- ・居住地別にみると、「会社員・公務員」の割合が特に多いのは、本町、三ツ藤、伊奈平、学園で、緑が丘では「無職」の割合が、中藤では「主婦・主夫」や「パート・アルバイト」の割合が、中原では「主婦・主夫」の割合が比較的多くなっている。



▲居住地別職業構成

(5) 自動車等運転免許保有状況

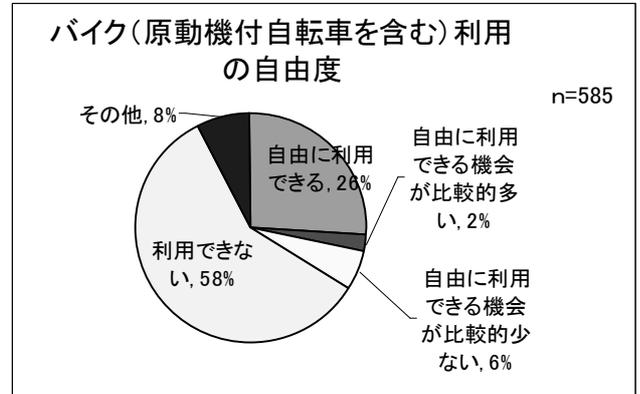
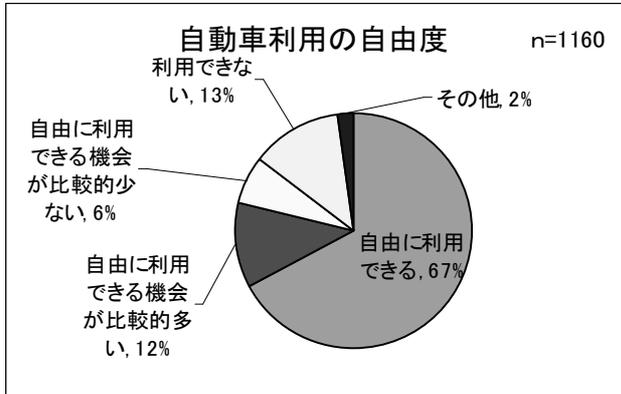
- ・普通自動車免許を保有している人が6割以上おり、自動二輪車、原動機付自転車を含めると、8割以上の方が免許を保有している。
- ・居住地別にみると、緑が丘で「運転免許を保有していない」割合が高くなっている。



▲居住地別自動車等運転免許保有状況

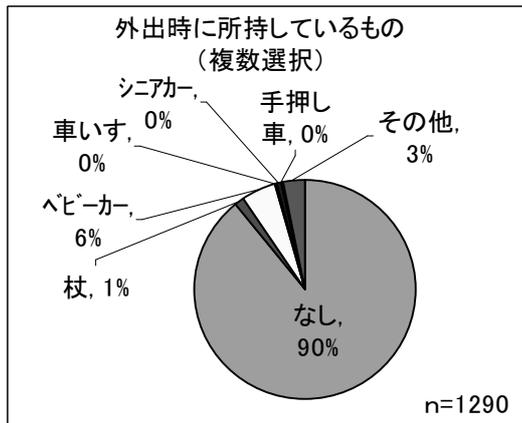
(6) 自動車等の利用の自由度

- ・自動車利用の自由度については、約7割が「自由に利用できる」と回答しており、「自由に利用できる機会が比較的多い」も含めると約8割の人が自動車を利用しやすい環境にあることが伺える。



(7) 外出時に使うもの

- ・外出時に使うものとしては、「なし」を選択した人が約9割となっている。

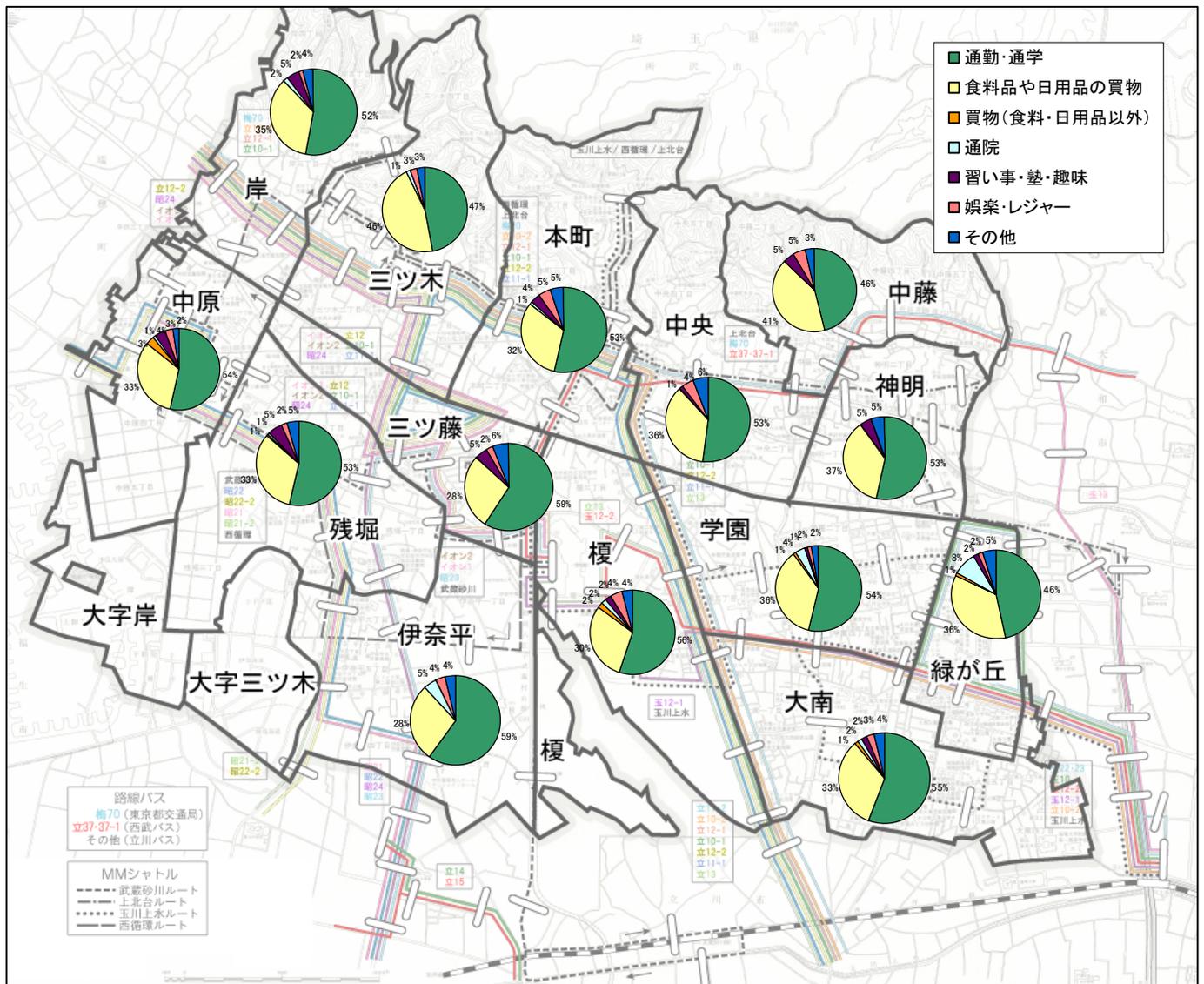
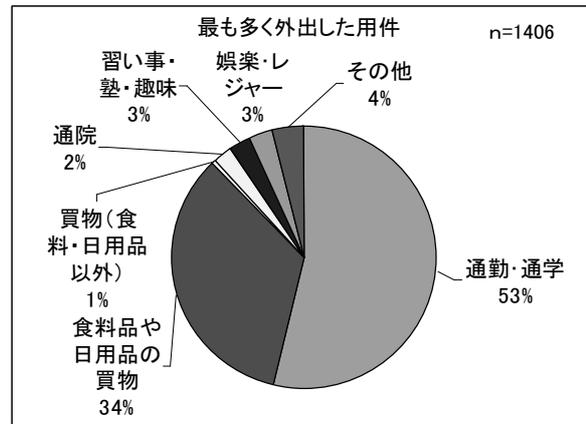


4.3 日常生活の行動パターン(問1)

(1) 最近三ヶ月で最も多く外出した用件について

○最近三ヶ月で最も多く外出した用件

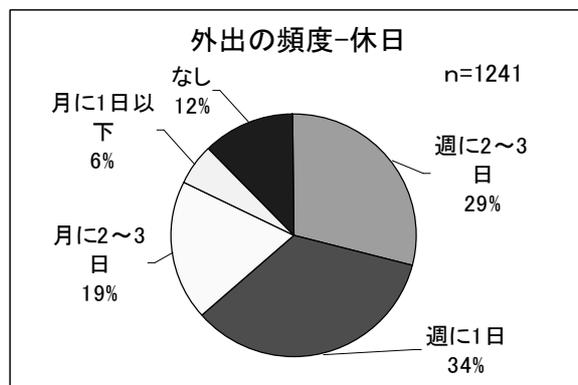
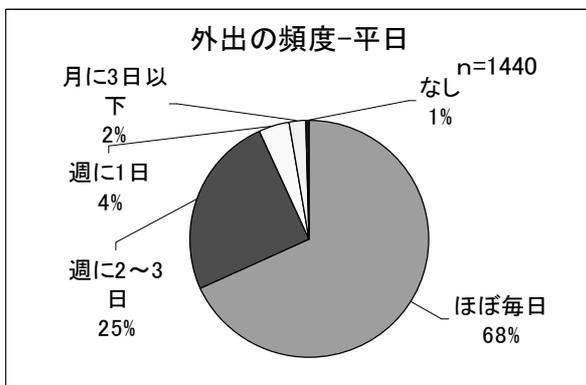
- ・最近三ヶ月で最も多く外出した用件としては、「通勤・通学」が半数以上で最も多く、次いで「食料品や日用品の買い物」が3割以上を占める。
- ・居住地別にみると、「通勤・通学」の割合が特に多いのは三ツ藤や伊奈平で、「食料品や日用品の買い物」は三ツ木や中藤で高い。また緑が丘や伊奈平では「通院」と回答した人が他の地域より比較的多くなっている。



▲居住地別-最近三ヶ月で最も多く外出した用件

①最近三ヶ月で最も多く外出した用件の外出頻度

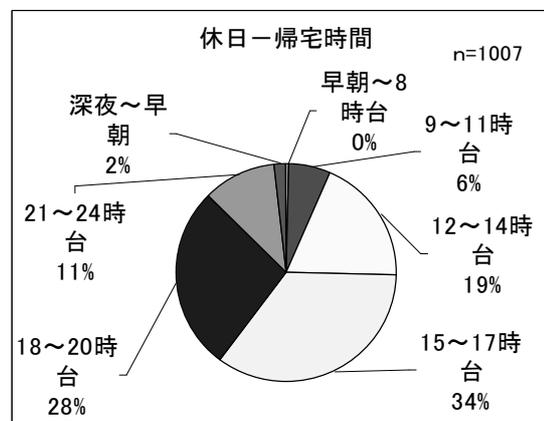
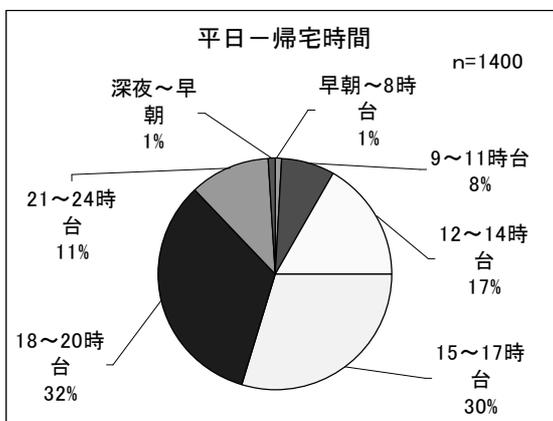
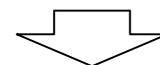
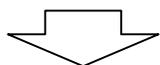
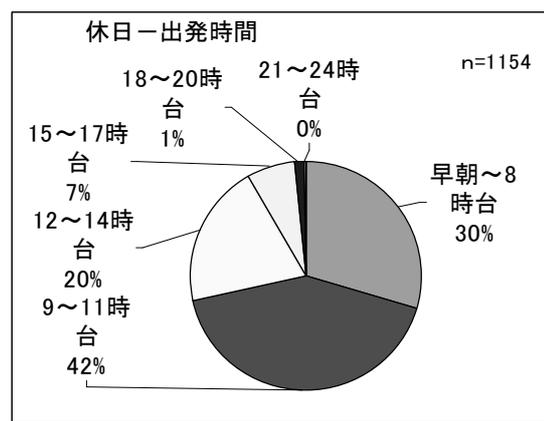
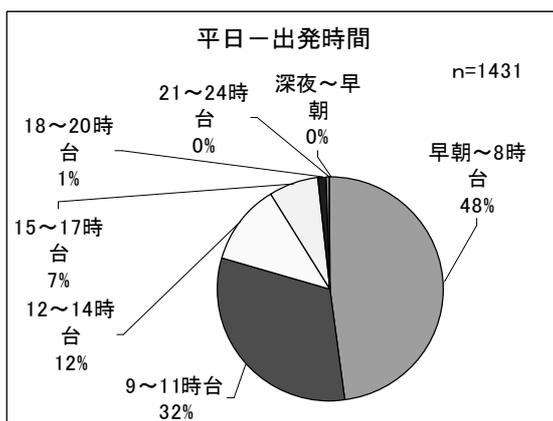
・上記の用件の頻度は、平日は「ほぼ毎日」、休日は「週に1日」が多い。



②最近三ヶ月で最も多く外出した用件の出発時間と帰宅時間

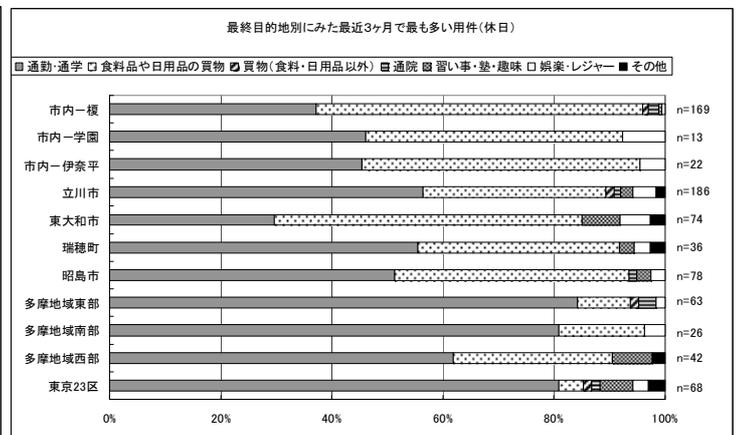
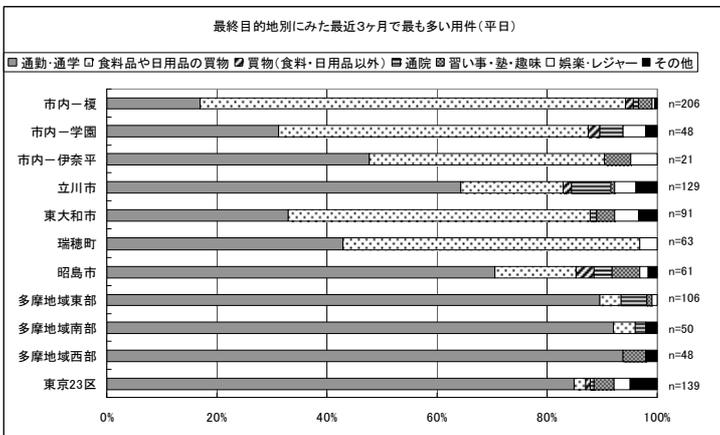
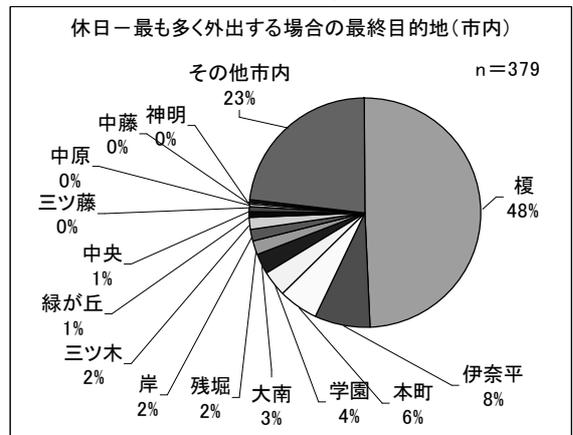
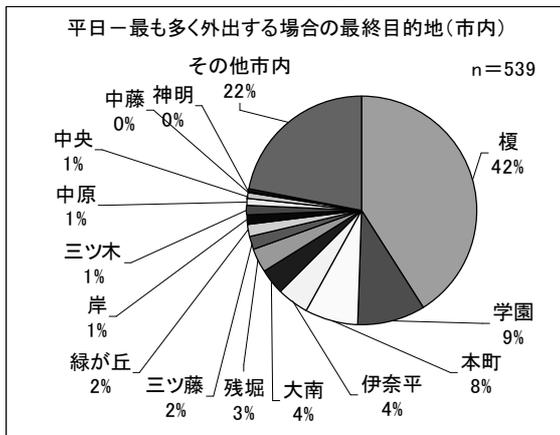
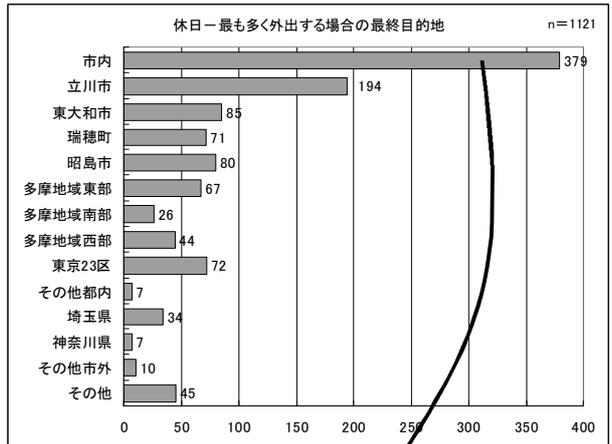
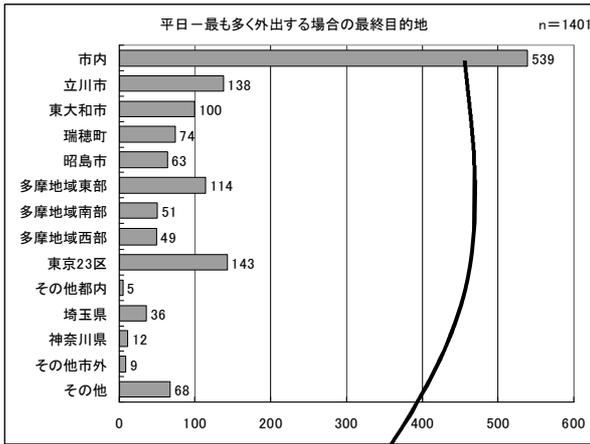
・平日は、「早朝～8時台」の出発が多く（48%）、「18～20時台」や「15～17時台」の帰宅が多い（それぞれ32%、30%）。

・休日は、「9～11時台」の出発が多く（42%）、「15～17時台」の帰宅が多く（34%）、平日に比べて遅く出発し少し早く帰宅する傾向となっている。



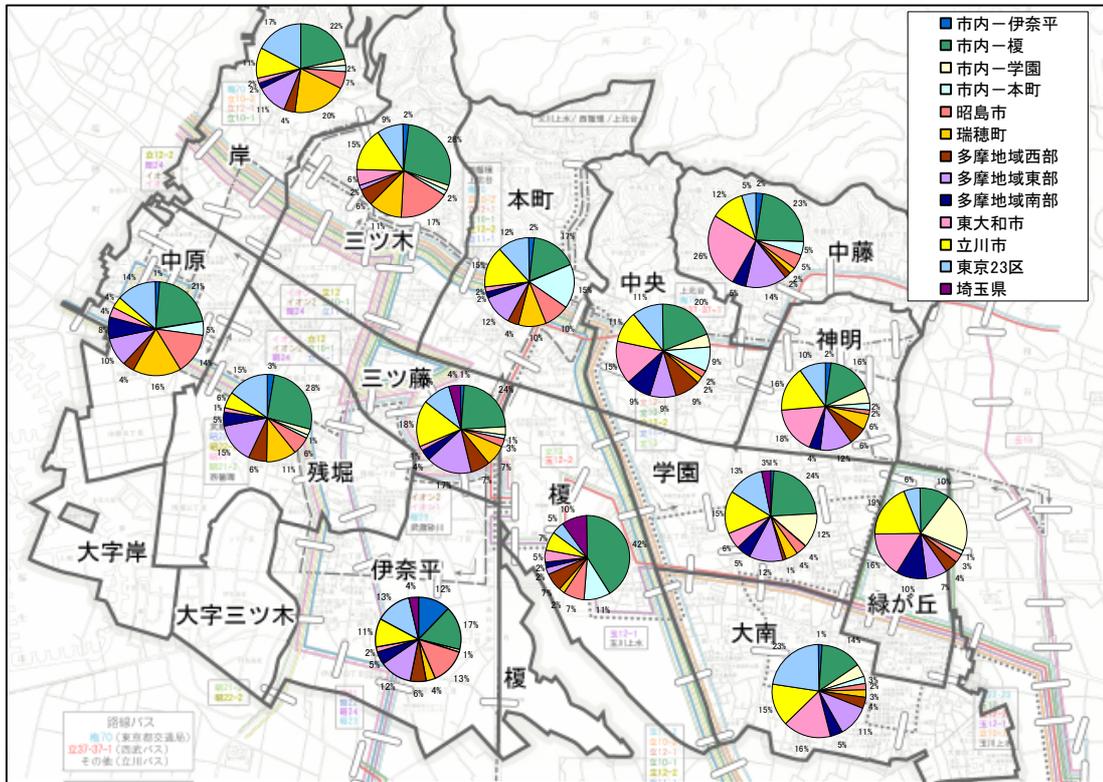
③最近三ヶ月で最も多く外出した用件の最終目的地

- ・平日、休日とも最終目的地が「市内」となっている人が多く、市内の中でも「榎」が多い。具体施設としては「イオンモール」などがあげられ、市内の平日は食料品や日用品の買い物先としての用件が多く占める。
- ・市外の目的地としては、立川市や東京23区が多くみられ、市外の目的地は東大和市を除き通勤・通学先としての用件が多くを占め、東大和市や平日の瑞穂町は食料品や日用品の買い物先としての用件が多く占める。

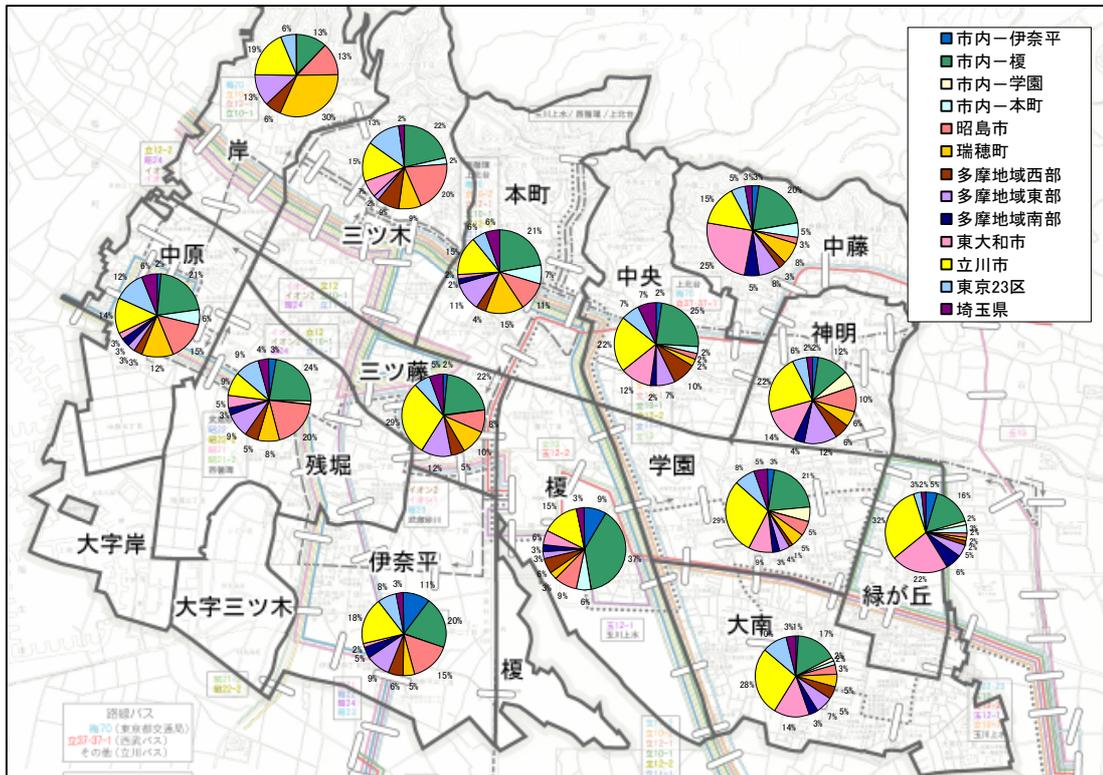


・居住地別にみると、昭島市、瑞穂町、東大和市などを目的地とするのは、それぞれに近い地区で割合が多くなっている。

- ・昭島市を目的地とするのは、三ツ木、中原、伊奈平、残堀など
- ・瑞穂町を目的地とするのは、岸、中原など
- ・東大和市を目的地とするのは、中藤、中央、神明、緑が丘、大南など
- ・立川市を目的地とするのは、緑が丘、大南、学園、神明、三ツ藤、本町、三ツ木



▲居住地別-最近三ヶ月で最も多く外出した目的地(平日)

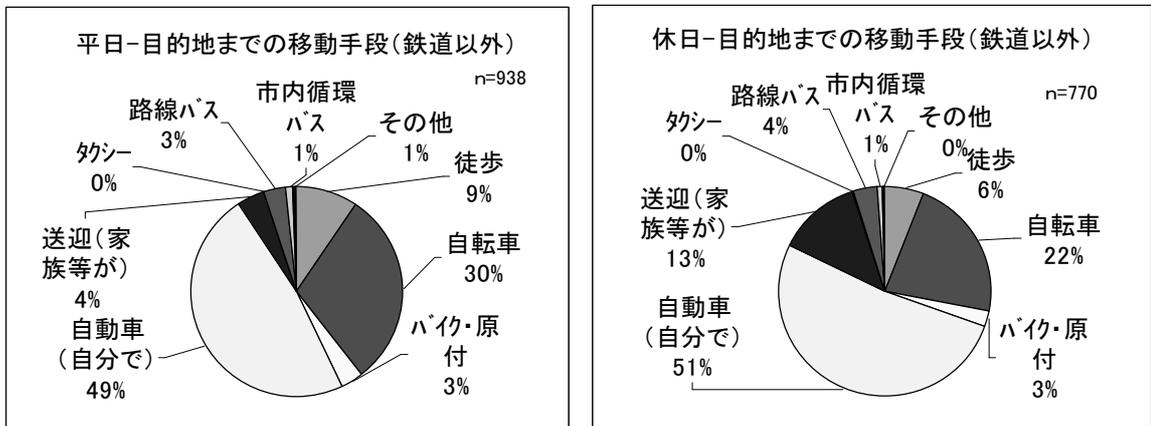


▲居住地別-最近三ヶ月で最も多く外出した目的地(休日)

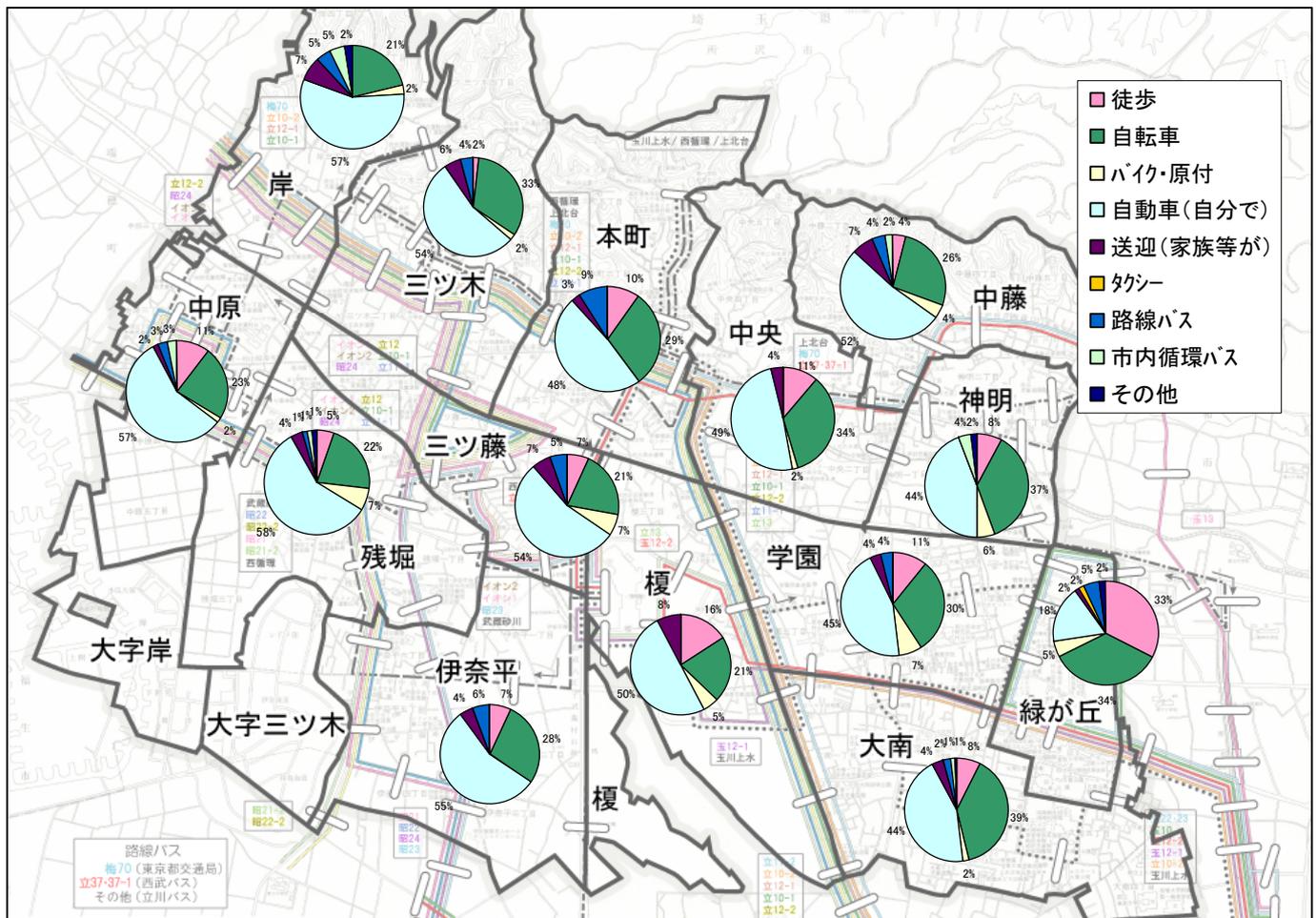
④最近三ヶ月で最も多く外出した用件の最終目的地までの移動手段

【鉄道を利用しない場合】

- ・平日、休日とも自分で自動車を運転する人が半数を占め、次いで自転車利用となっている。
- ・休日は平日に比べて、家族等による送迎の割合が増え、徒歩や自転車を利用する割合が減る傾向にある。



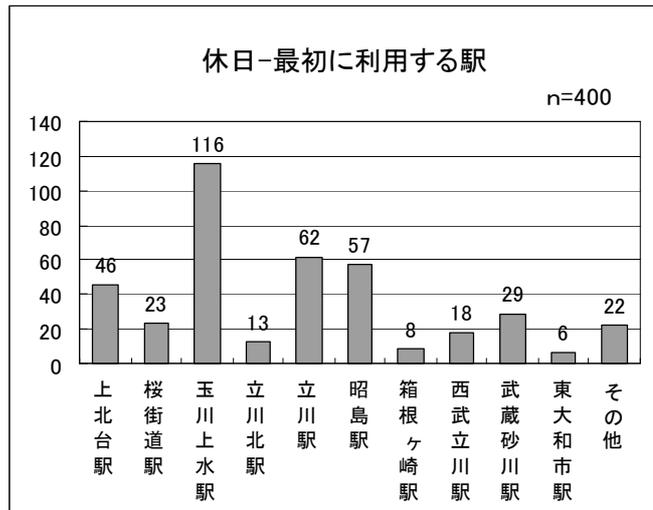
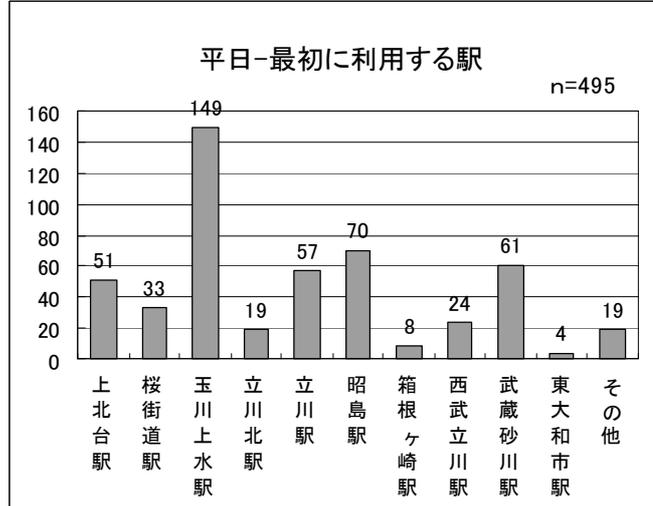
- ・居住地別にみると、緑が丘は徒歩による移動が多く自転車、バイク・原付を含めると7割以上となっている。



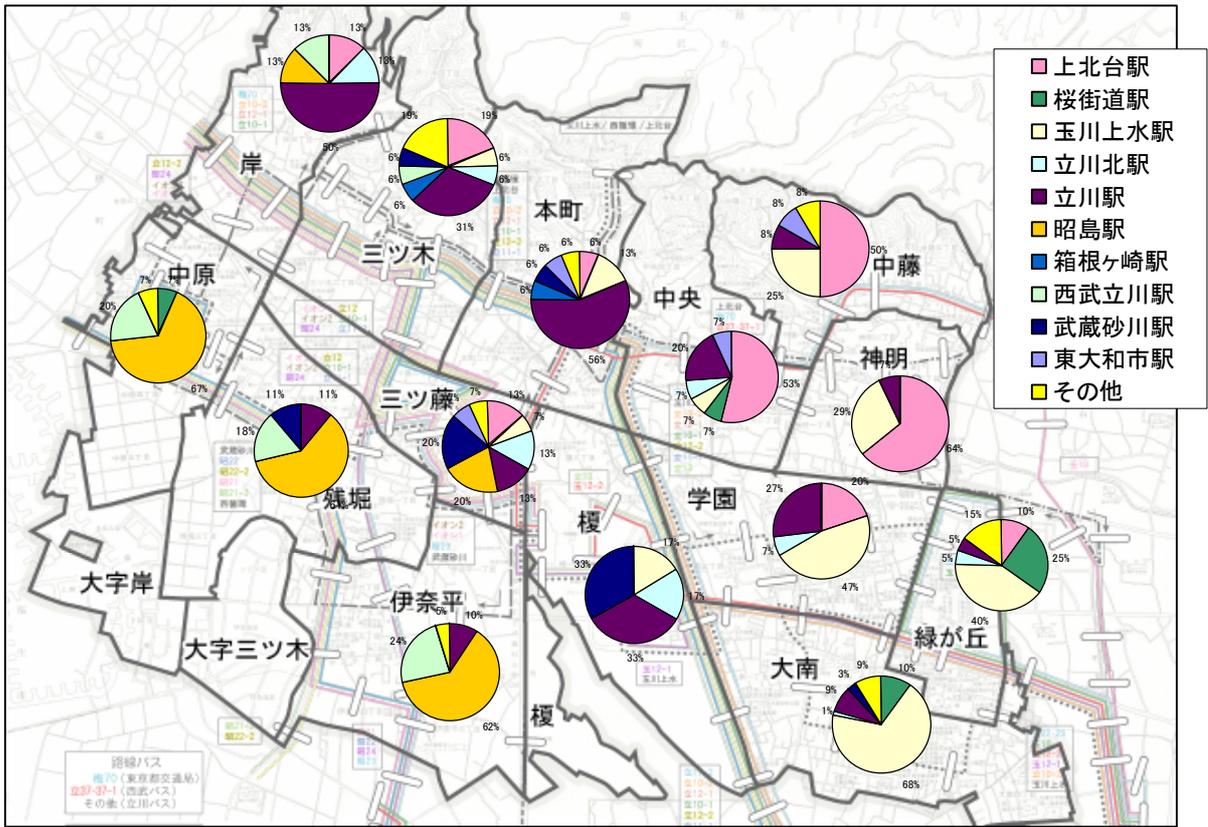
▲居住地別-鉄道を利用しない場合の目的地までの移動手段(平日)

【鉄道を利用する場合】

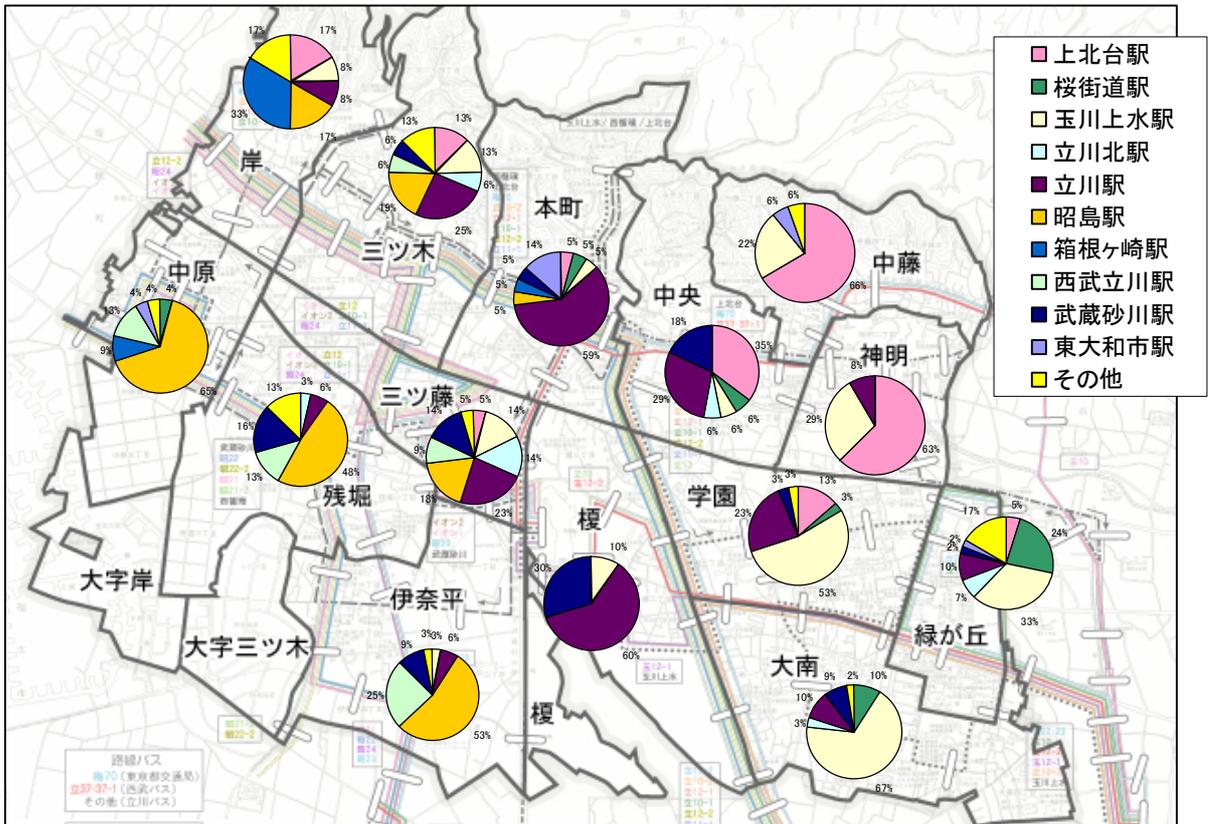
- ・平日、休日とも玉川上水駅利用者が多く、次いで昭島、立川、上北台、武蔵砂川といった駅があがっている。



- ・居住地別にみると、玉川上水駅利用が多いのは学園・大南・緑が丘など市の南東部、昭島駅利用が多いのは伊奈平・残堀・中原など市の南西部、上北台駅利用が多いのは神明・中央・中藤など市の北東部、武蔵砂川駅利用が多いのは榎など市南部というように駅の最寄りの地域による利用が多いが、立川駅については榎・三ツ藤・三ツ木・中央・本町など市の中部・北部・北西部からの利用が多くみられる。

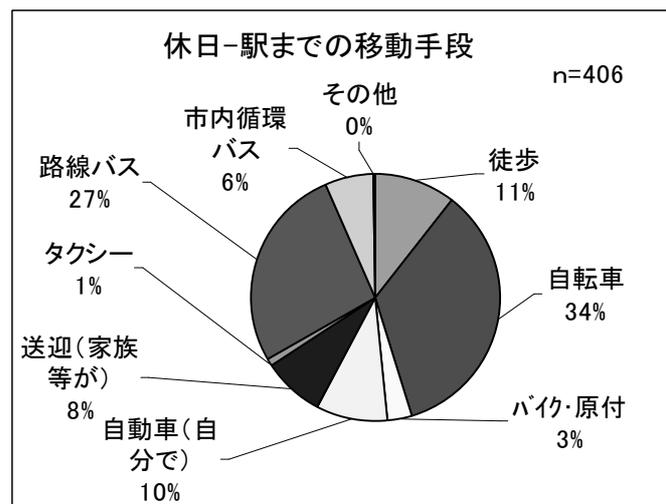
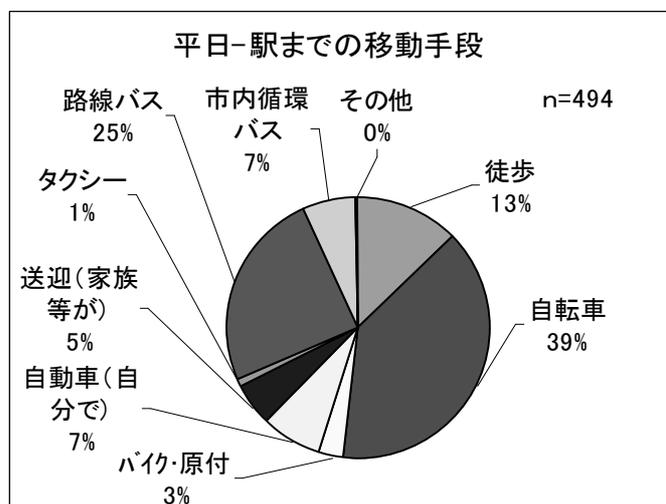


▲居住地別-鉄道を利用する場合の最初に利用する駅(平日)

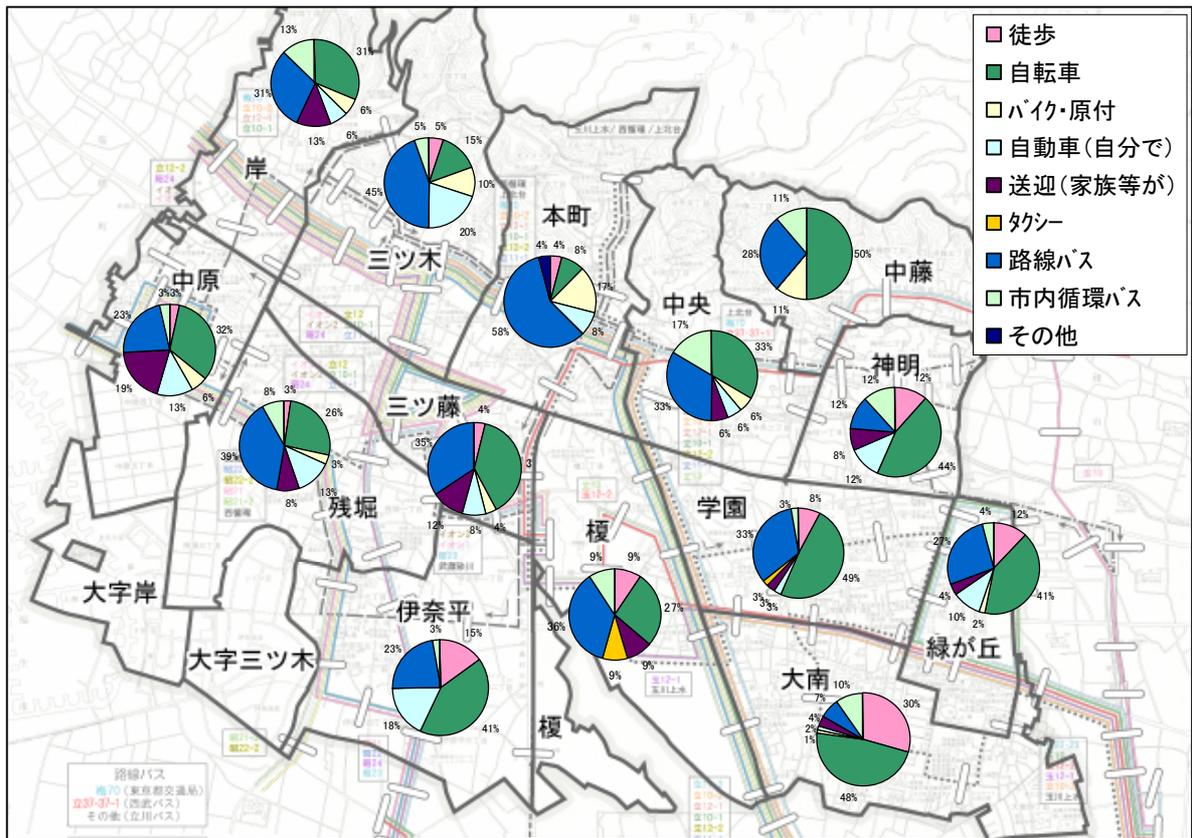


▲居住地別-鉄道を利用する場合の最初に利用する駅(休日)

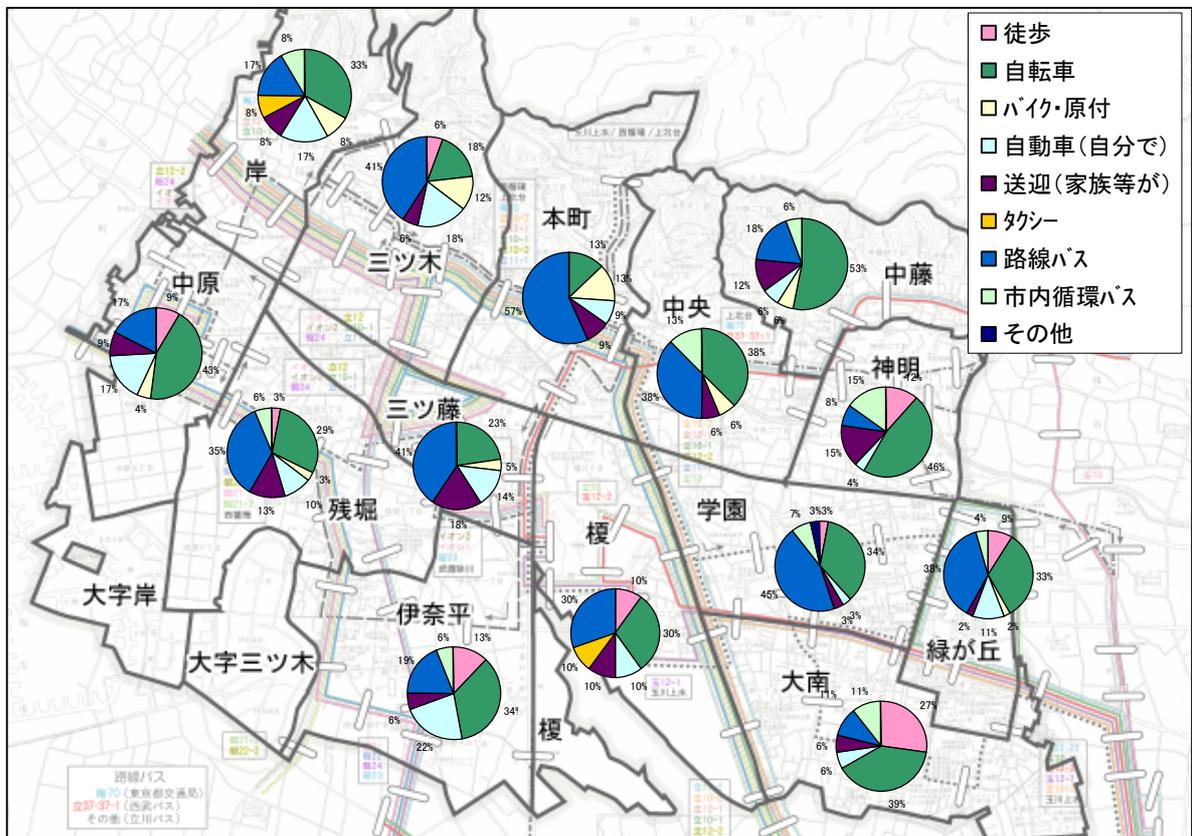
- ・駅までの移動手段としては、平日、休日とも徒歩や自転車が多く、バイク・原付を含めると約半数を占める。
- ・また、平日、休日とも駅までの移動手段で2番目に多いのは路線バスであり、鉄道利用者にとっては重要な移動手段としての役割がある。



- ・居住地別にみると、鉄道駅に比較的近い大南で徒歩の割合が多い。
- また、自転車の割合も多いのは市域の東側や南側であり、本町などは路線バスの割合が最も多くなっている。
- 市内循環バスの利用割合は、上北台ルートを通る中央や神明などで比較的多くなっている。



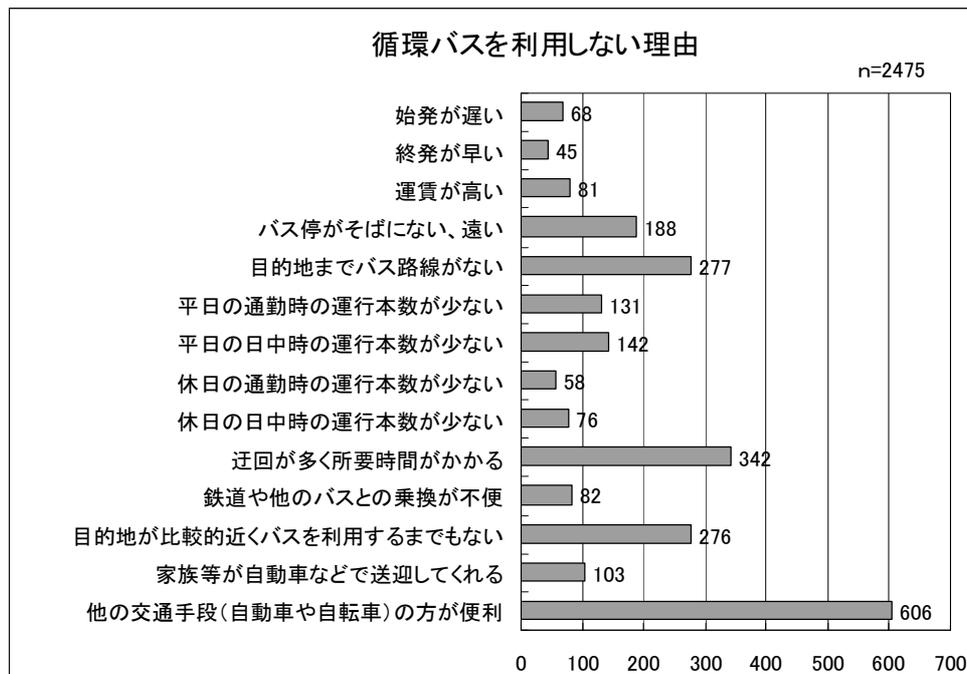
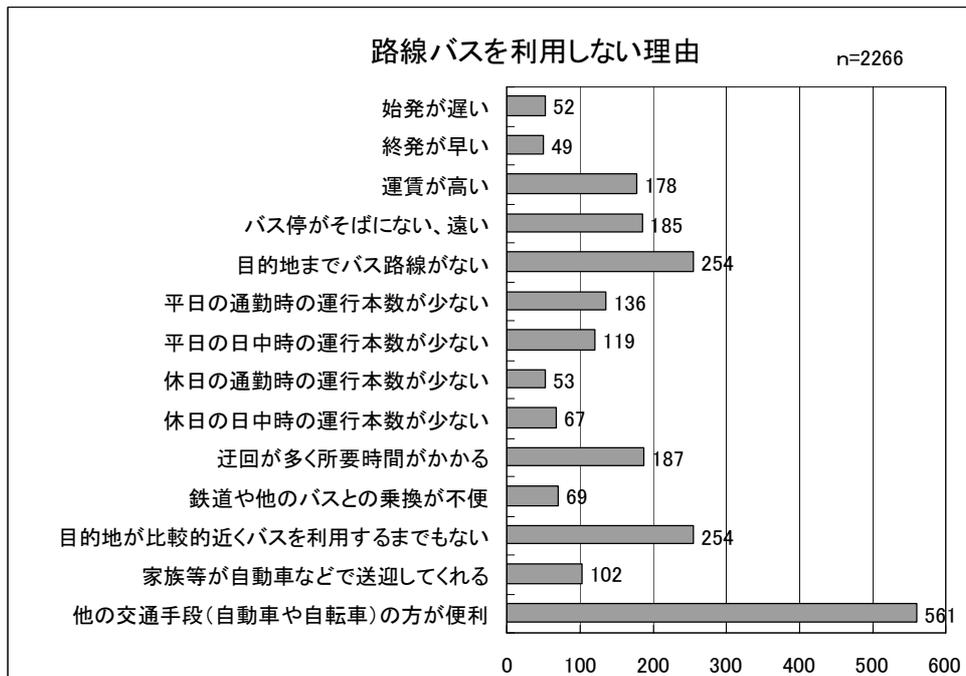
▲居住地別-鉄道を利用する場合の駅までの移動手段(平日)



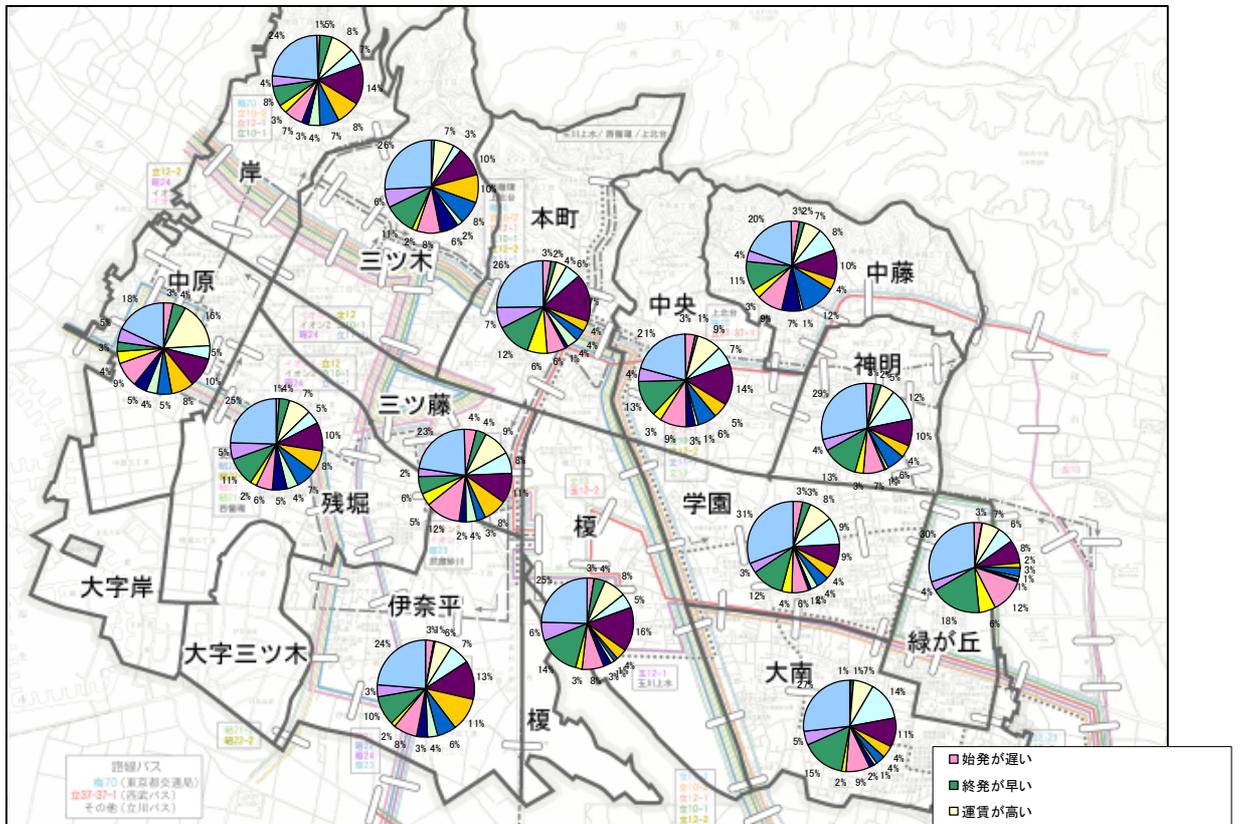
▲居住地別-鉄道を利用する場合の駅までの移動手段(休日)

⑤最近三ヶ月で最も多く外出した用件のバスを利用しない理由

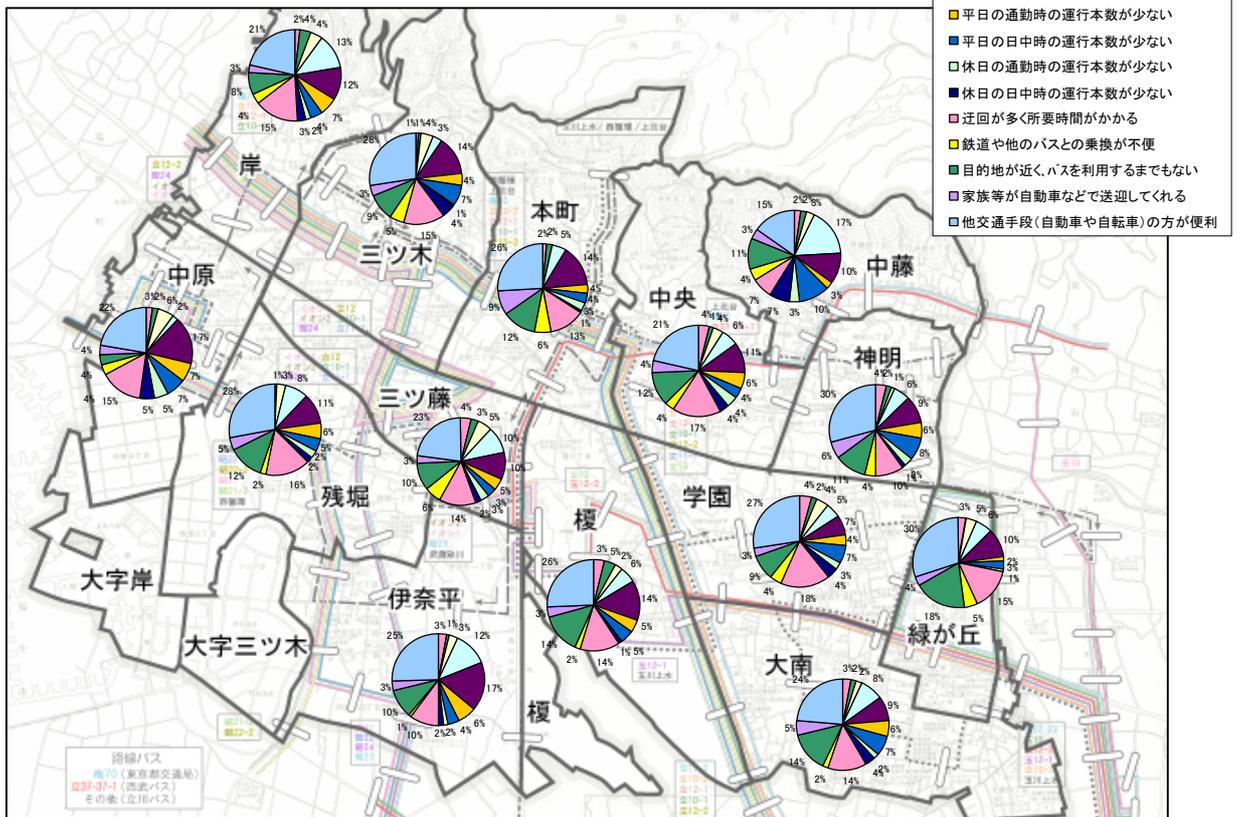
- ・路線バスや循環バスを利用しない理由として最も多いのは、「他の交通手段（自動車や自転車）の方が便利」であり、私的交通手段の優位性が表れている。
- ・次に多い理由としては、路線バスは「目的地が比較的近くバスを利用するまでもない」や「目的地までバス路線がない」となっておりバスを利用する必然性がない傾向がみられるが、循環バスでは「迂回が多く所要時間がかかる」が多く、循環バスの抱える課題といえる。



- ・居住地別にみると、「バス停がそばにない・遠い」と回答した人が多い地域は、路線バスでは大南、学園、神明、中藤などで、循環バスでは中藤、岸、伊奈平などとなっている。
- ・緑が丘などは目的地が近くバスを利用するまでもないという回答も比較的多くなっている。



▲居住地別-路線バスを利用しない理由

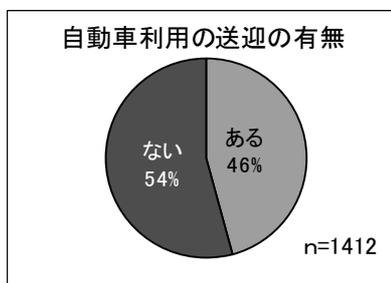


▲居住地別-循環バスを利用しない理由

4.4 送迎について(問2)

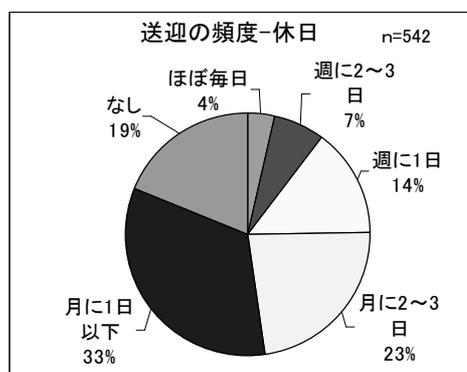
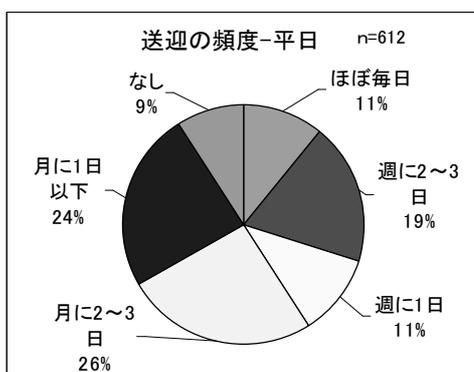
(1) 送迎の有無

- ・送迎の有無については、半数弱の人があると回答している。



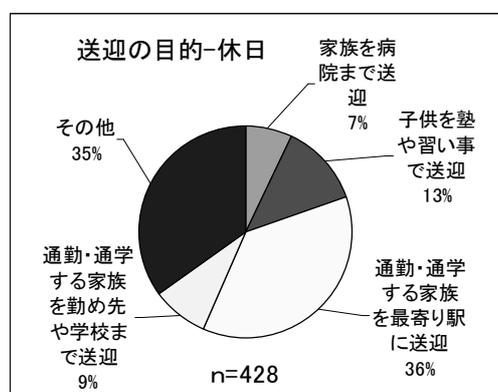
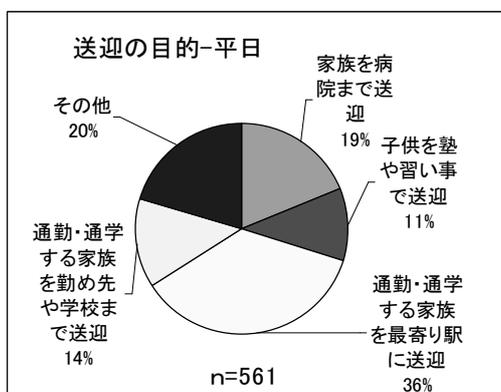
(2) 送迎の頻度

- ・送迎の頻度については、平日は「月に2～3日」「月に1日以下」が多く、休日は「月に1日以下」が多くなっており平日に比べて頻度が低い傾向にある。



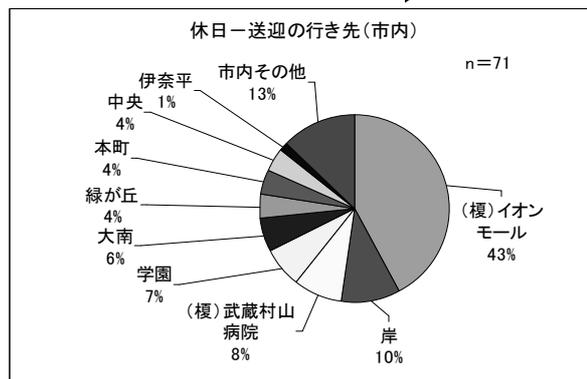
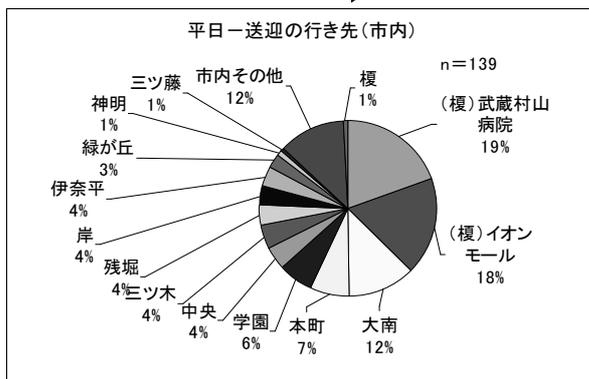
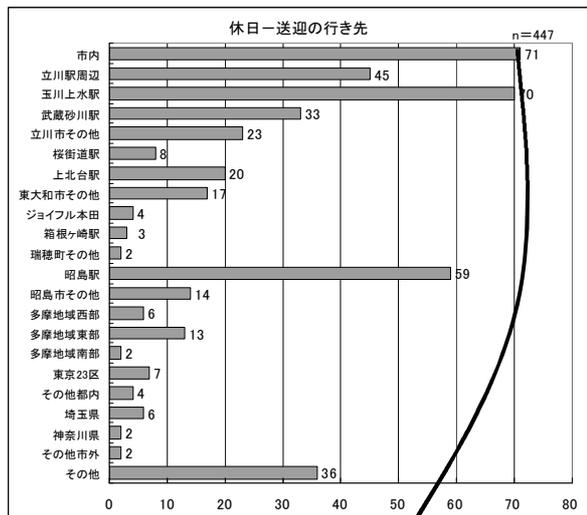
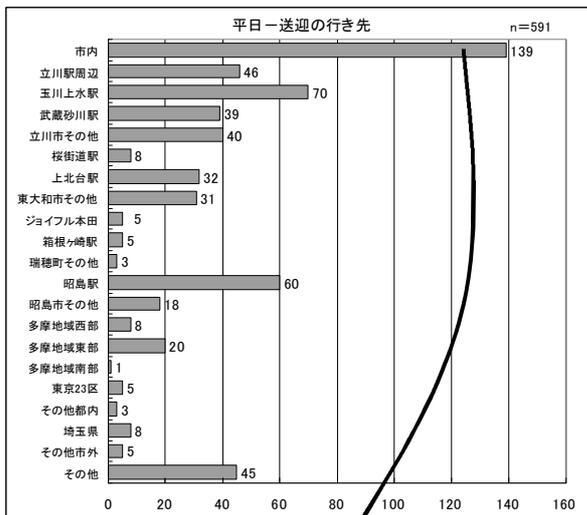
(3) 送迎の目的

- ・送迎の目的については、平日休日ともに「通勤・通学する家族を最寄り駅に送迎」が多く、平日では「家族を病院まで送迎」も多くなっている。
- ・「その他」の回答が多くなっているが、具体的な記載では、買い物に関するものが多く見られた。



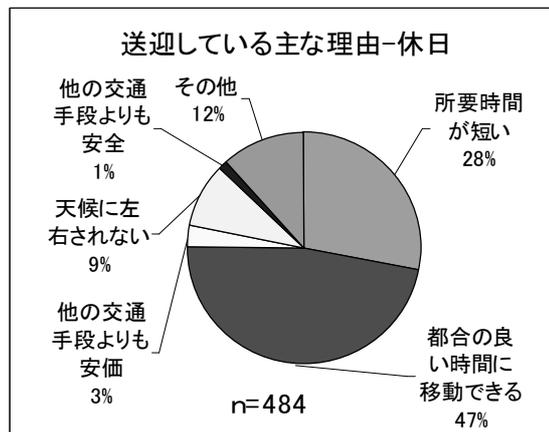
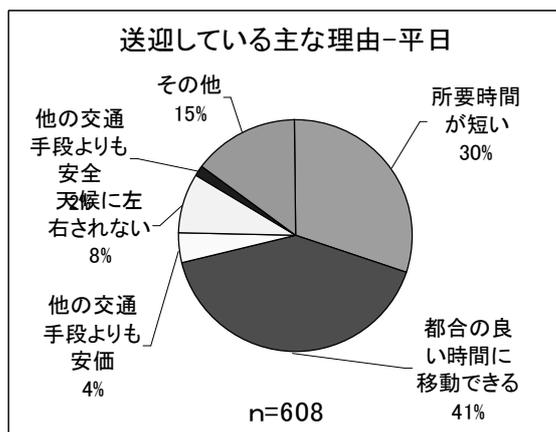
(4) 送迎の行き先

- ・平日の送迎先は「市内」が多く、中でも武蔵村山病院やイオンモールへの送迎が多い。「市内」に次いで多いのが「玉川上水駅」や「昭島駅」などとなっている。
- ・休日の送迎先は「市内」「玉川上水駅」が同程度で多く、次いで「昭島駅」や「立川駅周辺」などとなっている。



(5) 送迎の理由

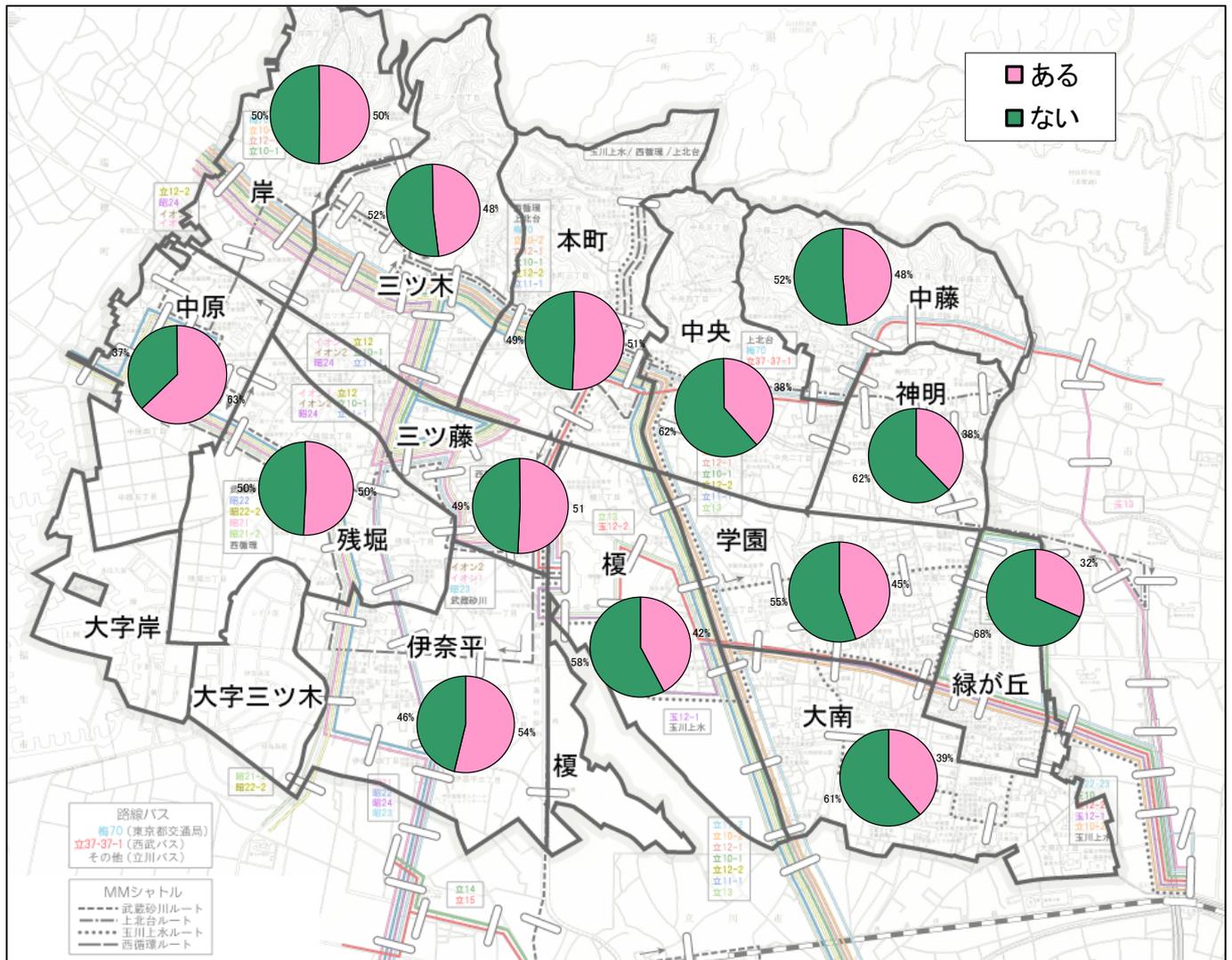
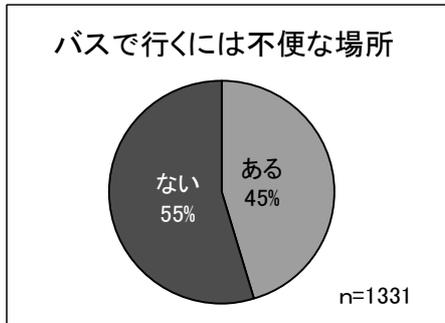
- ・送迎する理由として多いのは、平日休日とも「都合の良い時間に移動できる」や「所要時間が短い」となっており時間に関する理由が主であるとみられる。



4.5 バス利用について(問3)

(1) バスで行くには不便な場所の有無

- ・バスを使用して行きたいが、バスで行くには不便な場所の有無については、半数弱の人が「ある」と回答している。
- ・居住地別にみると、「ある」と答えた割合が多くなっているのは伊奈平や中原などで、「ない」と答えた割合が多くなっているのは緑が丘などである。



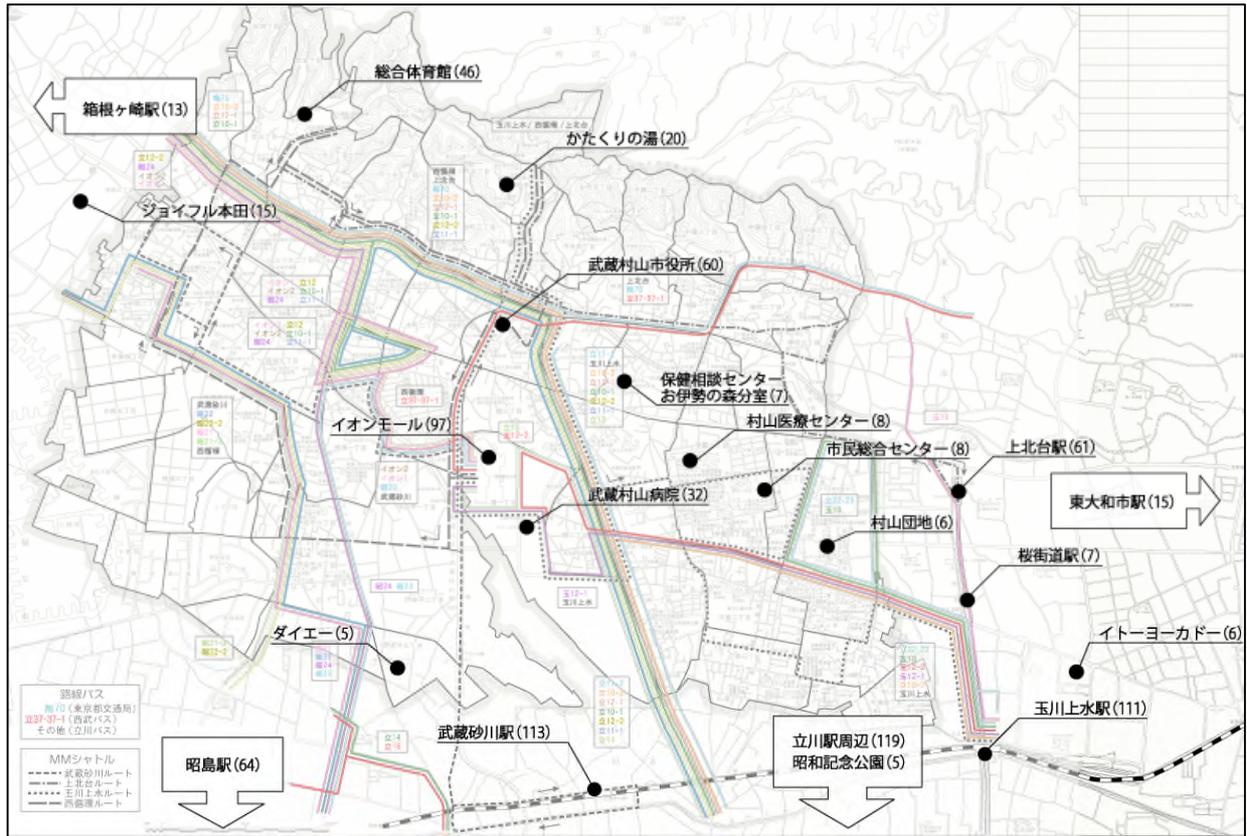
▲居住地別ーバスで行くには不便な場所の有無

(2) バスで行くには不便な場所の名称

- ・バスで行くには不便な場所があると回答した人に、具体の場所について聞いた結果、市内ではイオンモールや市役所、総合体育館など既に循環バス路線として設定されている箇所が多くあがっている。回答が多かった場所の中には「保健相談センターお伊勢の森分室」などバス停から離れている公共施設もある。
- ・市外については、立川駅周辺、武蔵砂川駅、玉川上水駅、上北台駅、昭島駅などの交通結節点が多くあがっている。

不便な場所(市内)	件数
(市内・榎)イオンモール	97
(市内・榎)武蔵村山病院	32
(市内・榎)奥住内科	1
(市内・榎)その他	1
(市内・本町)武蔵村山市役所	60
(市内・本町)かたくりの湯	20
(市内・本町)武蔵村山市民会館	5
(市内・本町)保健相談センター	4
(市内・本町)野山北公園	2
(市内・本町)市民会館さくらホール	2
(市内・本町)中部地区会館	1
(市内・本町)まどか保育園	1
(市内・本町)のぞみ福祉園	1
(市内・岸)武蔵村山総合体育館	46
(市内・岸)武蔵村山総合グラウンド	3
(市内・岸)里山民家	1
(市内・学園)村山医療センター	8
(市内・学園)市民総合センター	8
(市内・学園)雷塚図書館	2
(市内・学園)福祉センター	2
(市内・学園)雷塚小学校	1
(市内・学園)東京小児療育病院	1
(市内・学園)第九小学校	1
(市内・学園)NPO法人えのき園	1
(市内・学園)その他	1
(市内・緑が丘)村山団地	6
(市内・緑ヶ丘)市民ふれあいセンター	1
(市内・緑が丘)市民ふれあいセンター	1
(市内・緑が丘)その他	1
(市内・伊奈平)ダイエー	5
(市内・伊奈平)伊奈平診療所	2
(市内・伊奈平)伊奈平南クリニック	1
(市内・伊奈平)ラウンドワン	1
(市内・中央)保健相談センターお伊勢の森分	7
(市内・中原)武蔵村山高校	4
(市内・中藤)中藤図書館	1
(市内・中藤)アライ電子株式会社	1
(市内・三ツ木)地区会館	3
(市内・三ツ木)下田医院	1
(市内・三ツ木)いずみ幼稚園	1
(市内・三ツ木)介護施設アルカディア	2
(市内・三ツ木)ヤマダ電機	1
(市内・三ツ木)その他	1
(市内・神明)	3
(市内・大南)地区会館	1
(市内・大南)拓大一高	1
(市内・大南)大南図書館	1
(市内・大南)その他	1
(市内・残堀)第五中学校	1
(市内)その他	7

不便な場所(市外)	件数
(立川市)立川駅周辺	119
(立川市)武蔵砂川駅	113
(立川市)玉川上水駅	111
(立川市)昭和記念公園	5
(立川市)災害医療センター	2
(立川市)相互病院	1
(立川市)泉体育館	1
(立川市)税務署	1
(立川市)西武立川駅	1
(立川市)昭和第一学園高校	1
(立川市)砂川町	1
(立川市)幸町	1
(立川市)河川敷野球場	1
(立川市)その他	24
(東大和市)上北台駅	61
(東大和市)東大和市駅	15
(東大和市)桜街道駅	7
(東大和市)イトーヨーカドー	6
(東村山市)東村山駅	4
(東大和市)東大和病院	3
(東大和市)モノレール駅	2
(東大和市)ダイエー	2
(東大和市)病院	1
(東大和市)中央図書館	1
(東大和市)接骨院	1
(東大和市)上仲原公園野球場	1
(東大和市)高橋医院	1
(東大和市)ロンドフィットネスクラブ	1
(東大和市)ハミングホール	1
(東大和市)コープ上北台店	1
(東大和市)その他	3
(昭島市)昭島駅	64
(昭島市)エスバ昭島店	3
(昭島市)拝島駅	3
(昭島市)中神駅	2
(昭島市)昭島病院	2
(昭島市)その他	13
(瑞穂町)ジョイフル本田	15
(瑞穂町)箱根ヶ崎駅	13
(瑞穂町)木下動物病院	1
(瑞穂町)㈱IHI瑞穂工場	1
(瑞穂町)その他	2
(東村山市)その他	1
(羽村市)	4
(小平市)	4
(埼玉県所沢市)	11
(埼玉県入間市)	2
(埼玉県)	1
(その他市外)	7



・バスで行くには不便な場所があると回答した人が多かった場所について、居住地別の状況を見てみると、以下ようになっており、直通のバス路線がなく、離れているような場合が多いと考えられる。

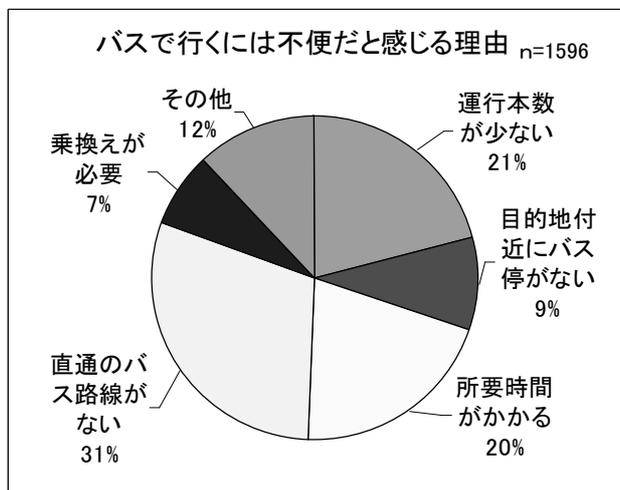
<不便な場所として上がった主な施設と回答した人の主な居住地>

- ・イオンモール：大南、神明、伊奈平
- ・武蔵村山総合体育館：大南
- ・武蔵村山市役所：大南、緑が丘
- ・昭島駅：伊奈平や残堀
- ・上北台駅：中藤
- ・玉川上水駅：学園、神明、大南、中央、中藤
- ・武蔵砂川駅：榎、学園、三ツ藤、三ツ木、残堀、大南、本町
- ・立川駅周辺：伊奈平、岸、三ツ藤、三ツ木、残堀、大南、中原

バスで行くには不便な場所 (回答の多かったもの)	居住地														総計
	伊奈平	榎	学園	岸	三ツ藤	三ツ木	残堀	神明	大南	中央	中原	中藤	本町	緑が丘	
(市内・榎)イオンモール	13	1	7	6	1	7	8	9	24	4	5	5	1	4	95
(市内・岸)武蔵村山総合体育	2	2	7	0	2	0	3	2	19	0	1	2	1	5	46
(市内・本町)武蔵村山市役所	7	0	4	0	3	1	7	1	17	0	6	0	0	11	57
昭島駅	14	2	1	6	5	6	10	0	3	3	8	2	3	0	63
上北台駅	1	2	7	3	7	2	5	7	0	4	6	13	4	0	61
玉川上水駅	4	4	15	3	6	4	5	10	29	11	0	12	5	0	108
武蔵砂川駅	8	9	11	5	15	8	15	0	18	5	6	0	11	1	112
立川駅周辺	14	1	3	9	15	9	16	3	13	3	16	6	8	1	117

(3) バスで行くには不便だと感じる理由

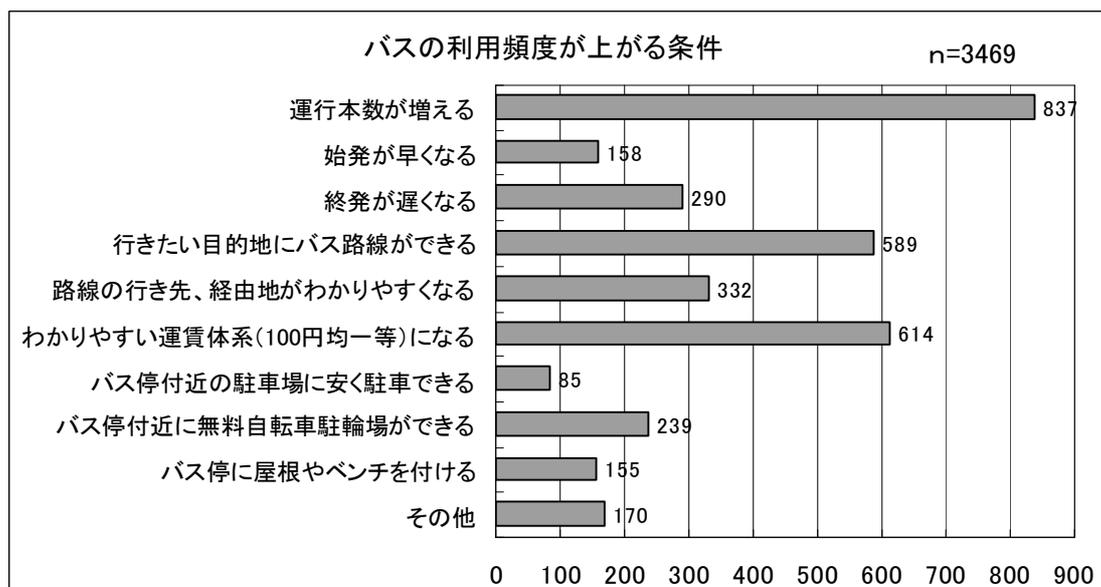
- ・バスで行くには不便だと感じている理由は、「直通のバス路線がない」、「所要時間がかかる」、「運行本数が少ない」といった回答が多く、バス路線があっても直通でなかったり、運行頻度や所要時間といった面が課題となっている。



4.6 今後のバスサービスのあり方について(問4)

(1) バスの利用頻度が上がる条件

- ・バスの利用頻度が上がるための条件としては、「運行本数が増える」が多く、次いで「分かりやすい運賃体系になる」「行きたい目的地にバス路線ができる」があがっている。

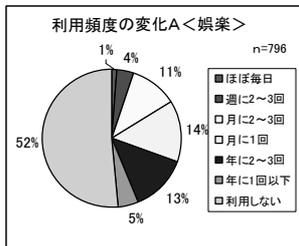
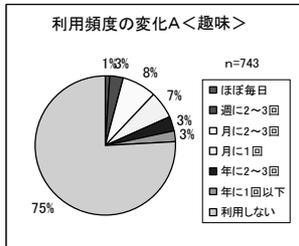
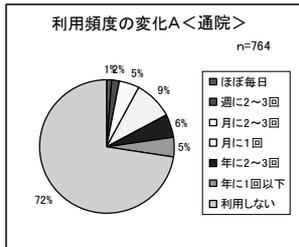
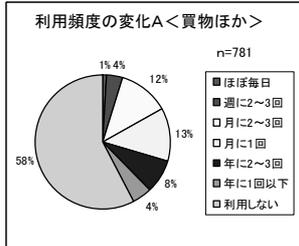
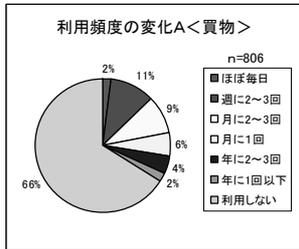
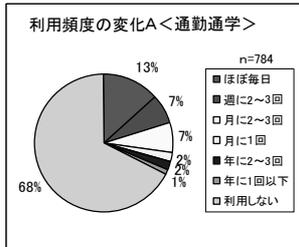


(2) バスの利用頻度が上がる条件

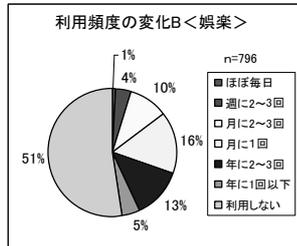
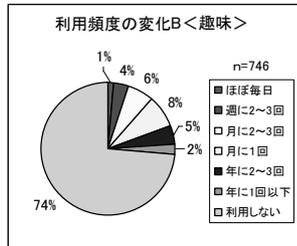
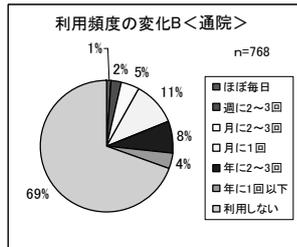
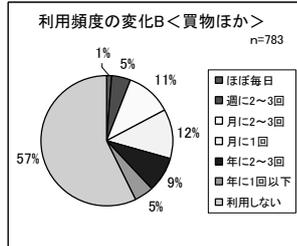
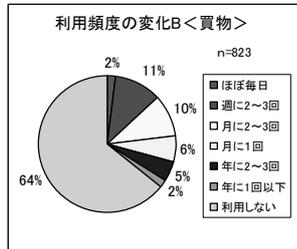
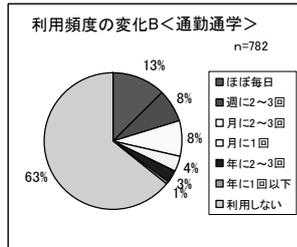
- ・バスのサービスレベルの変化による利用頻度の変化については、全般的に運賃を半額とするよりも運行本数を2倍にする方が若干利用頻度が上がる傾向がみられる。

…例えば、通勤通学に関して、サービスA（運賃半額）の場合とサービスB（運行本数2倍）の場合を比べると、「利用しない」割合はサービスAの方が多（68%>63%）ことから、サービスBの方が若干効果があると考えられる。

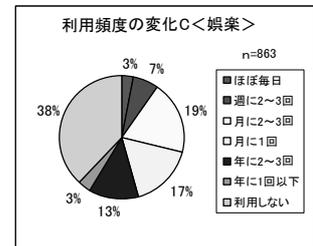
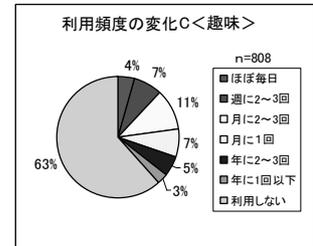
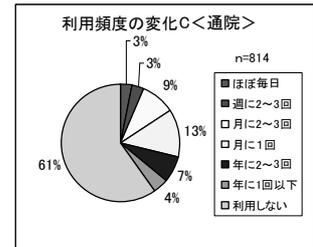
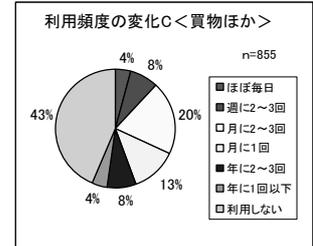
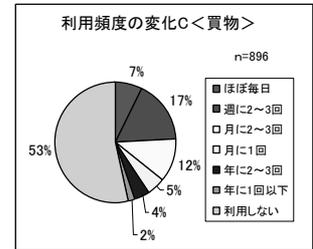
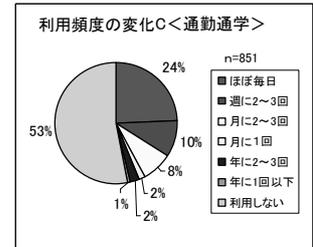
A. 運行本数は現行のままだが、運賃は半額になる



B. 運賃は現行のままだが、運行本数は2倍になる



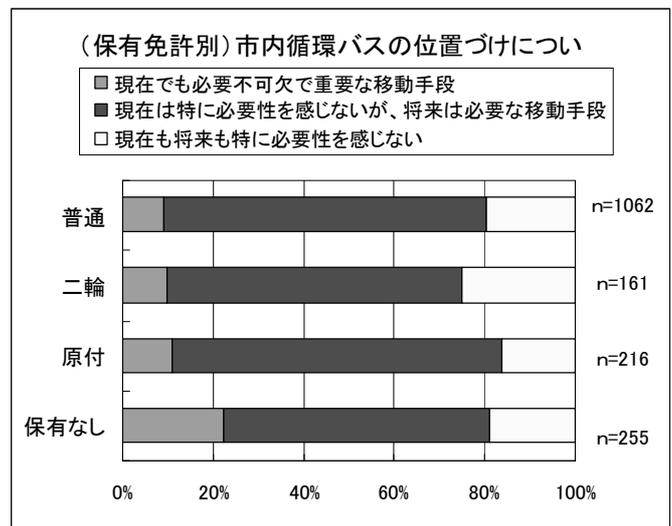
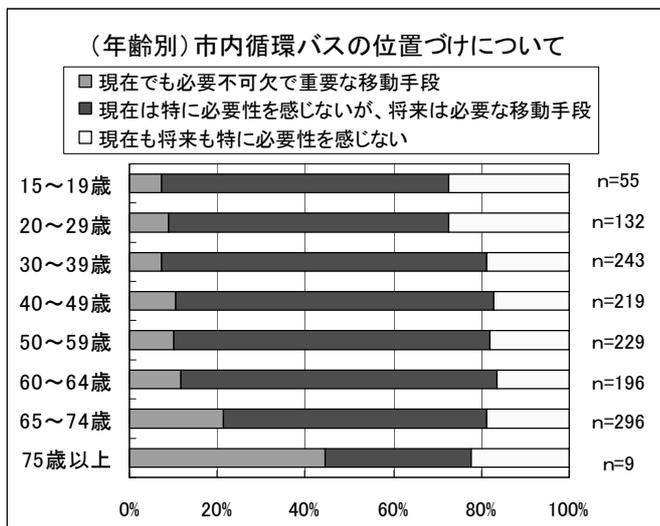
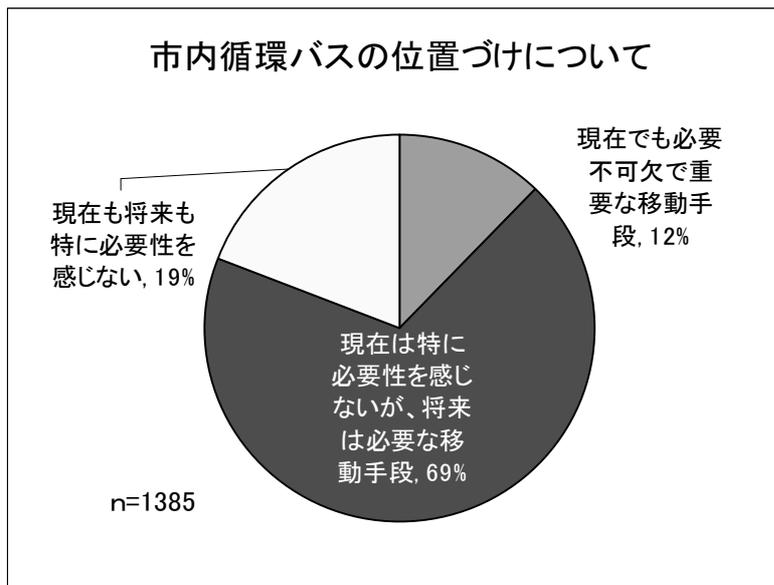
C. 運賃は半額になり、運行本数は2倍になる



4.7 市内循環バスの位置づけや運営について(問5)

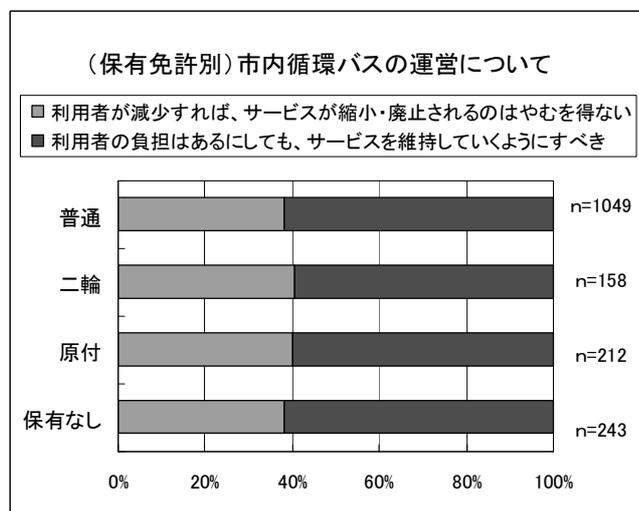
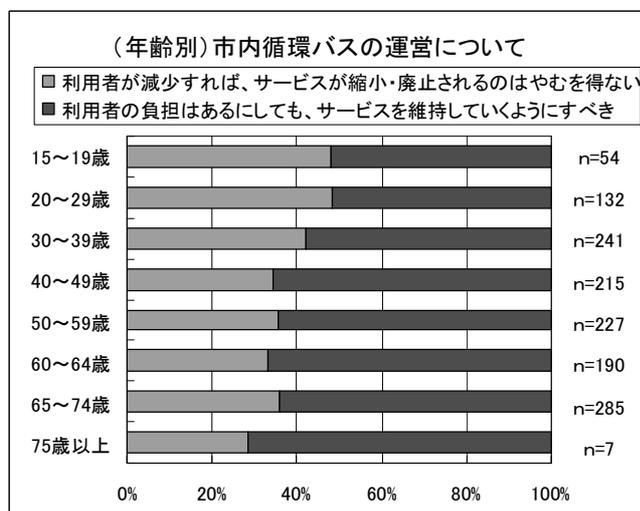
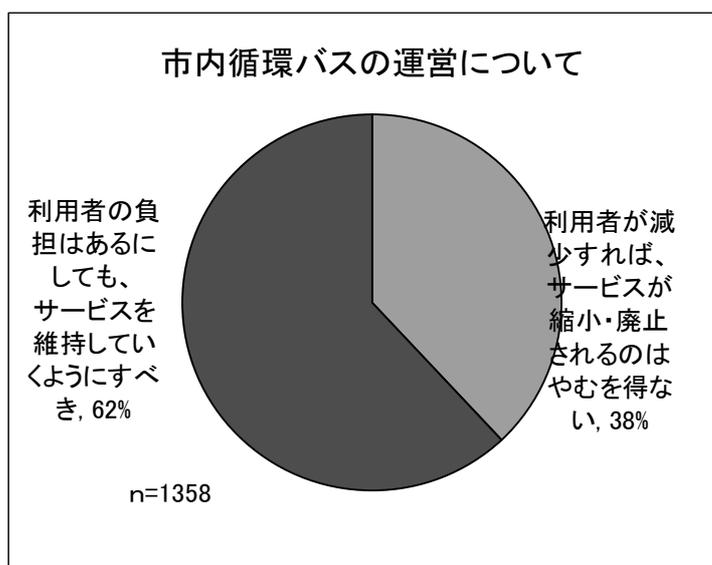
(1) 市内循環バスの位置づけについて

- ・市内循環バスの位置づけとしては、「現在は特に必要性を感じないが、将来は必要な移動手段」が約7割を占め、「現在でも必要不可欠で重要な移動手段」と回答した人と合わせて約8割が必要な手段として認識している。
- ・年齢別、保有免許別にみると、高齢になるほど、また自動車等の運転免許を保有していないほど「現在でも必要不可欠で重要な移動手段」と回答する割合が高くなっている。



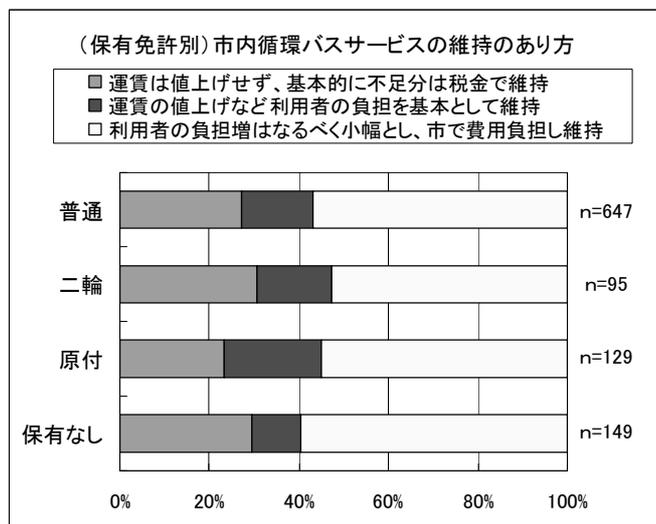
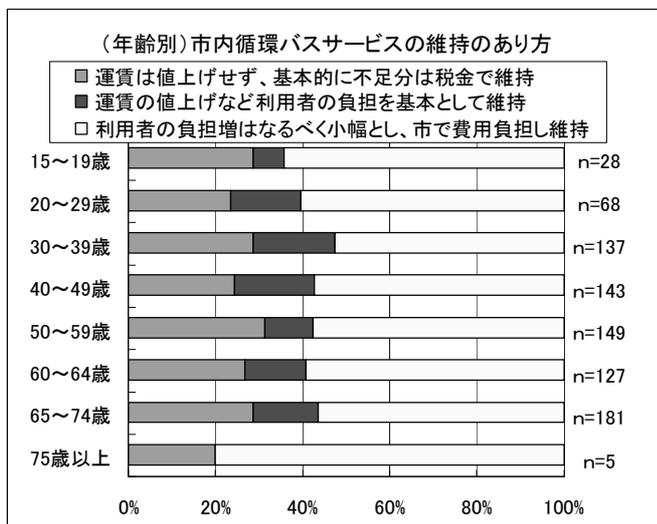
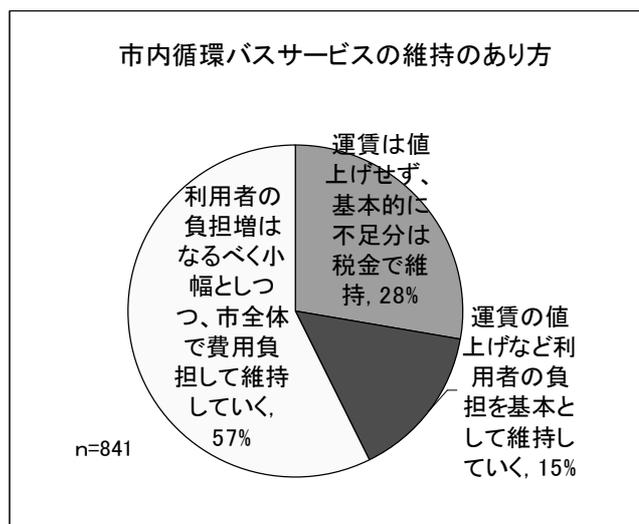
(2) 市内循環バスの運営について

- ・市内循環バスの運営のあり方については、「利用者の負担はあるにしても、利用しない人も含めた全体で市内循環バスサービスを維持していくようにすべき」が約6割を占める。
- ・年齢別にみると、高齢になるほど「利用者の負担はあるにしても、利用しない人も含めた全体で市内循環バスサービスを維持していくようにすべき」と回答する割合が高くなっていく。



(3) 市内循環バスサービスの維持のあり方について

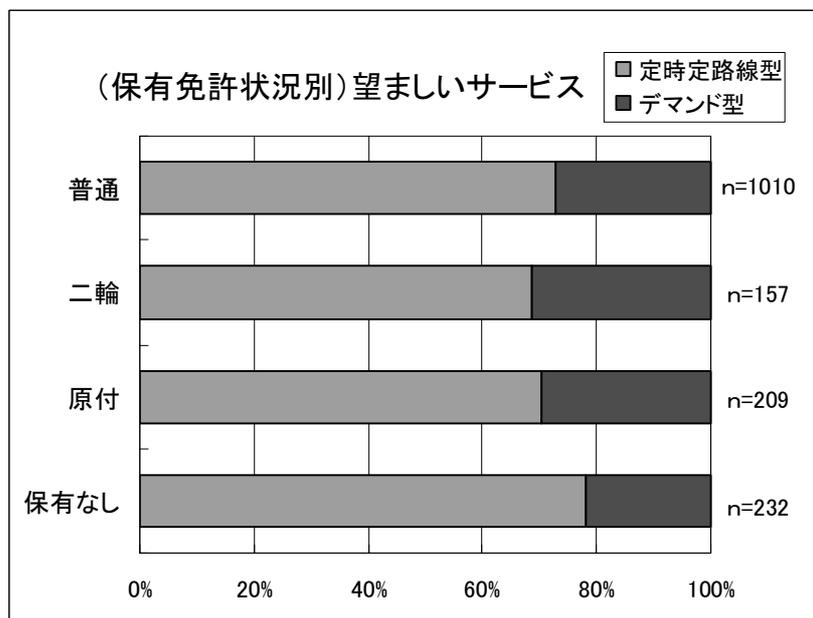
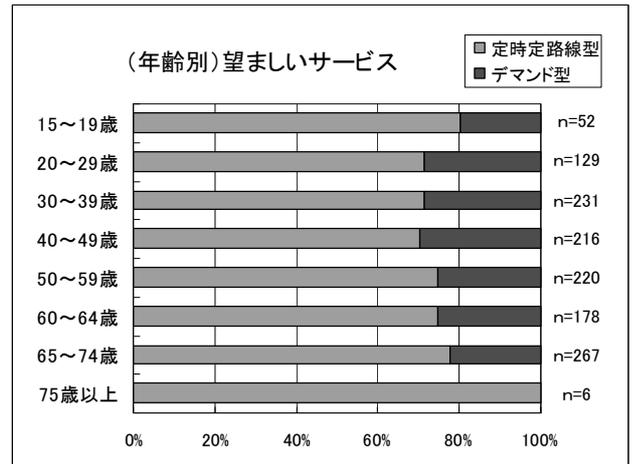
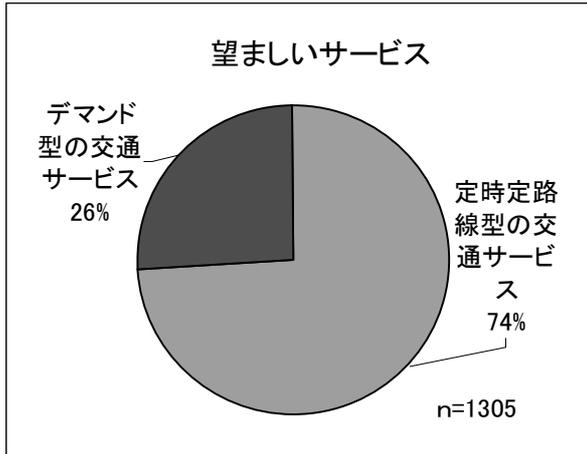
- ・市内循環バスサービスの維持のあり方については、「利用者の負担増はなるべく小幅としつつ市全体で費用負担して維持していく」が約6割を占める。
- ・年齢別にみると、20～49歳では、「運賃の値上げ等利用者の負担を基本として維持」が他の世代より回答割合がやや多くなっている。
- ・保有免許別にみると、自動車等の運転免許を保有している人は保有していない人に比べて「運賃の値上げ等利用者の負担を基本として維持」の回答割合がやや多くなっている。



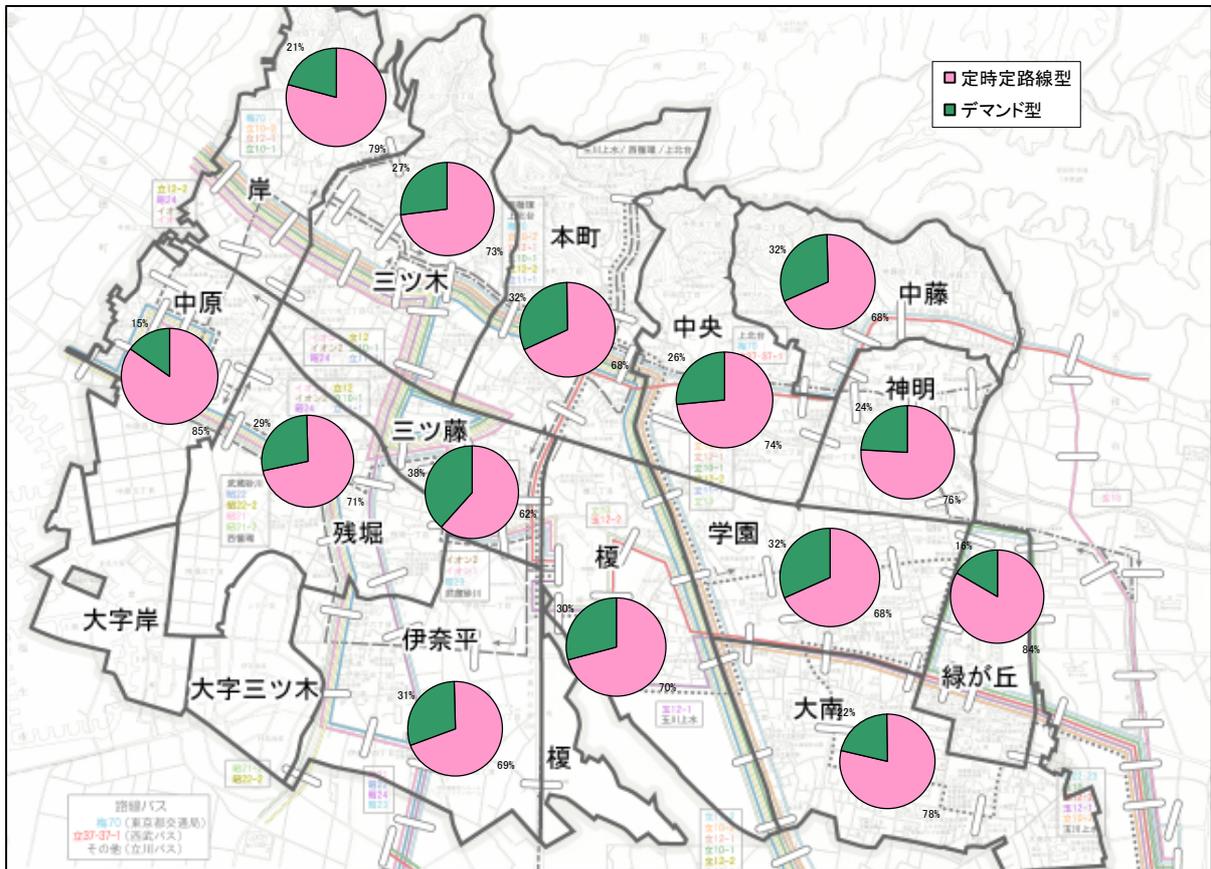
4.8 新たな公共交通サービスについて(問6)

(1) 望ましいサービス

- ・新たな公共交通サービスとしては、「デマンド型」よりも「定時定路線型」の方が望ましいものとして多く選択されている。
- ・保有免許状況別にみると、自動車等の運転免許を保有していない人は、保有している人に比べて「定時定路線型」を望む割合が多い。

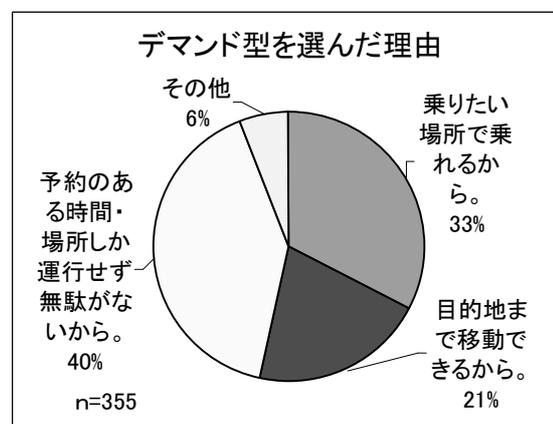
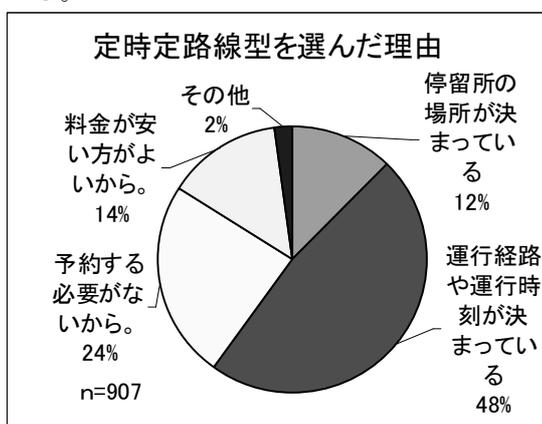


- ・居住地別にみると、定時定路線型を望む人の割合が比較的高いのは、緑が丘、大南、中原、岸などで、デマンド型を望む人の割合が比較的高いのは、三ツ藤、本町、中藤、学園などである。



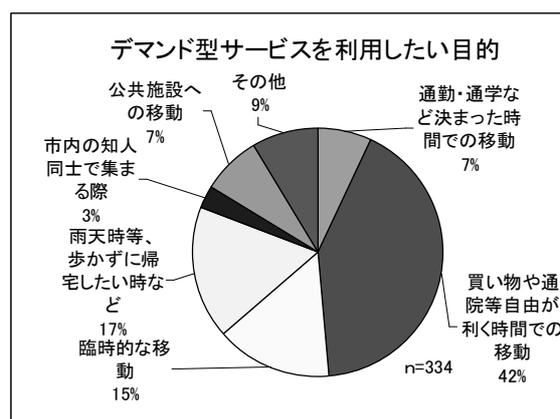
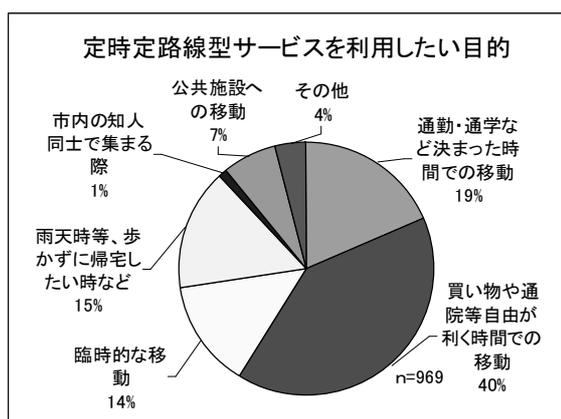
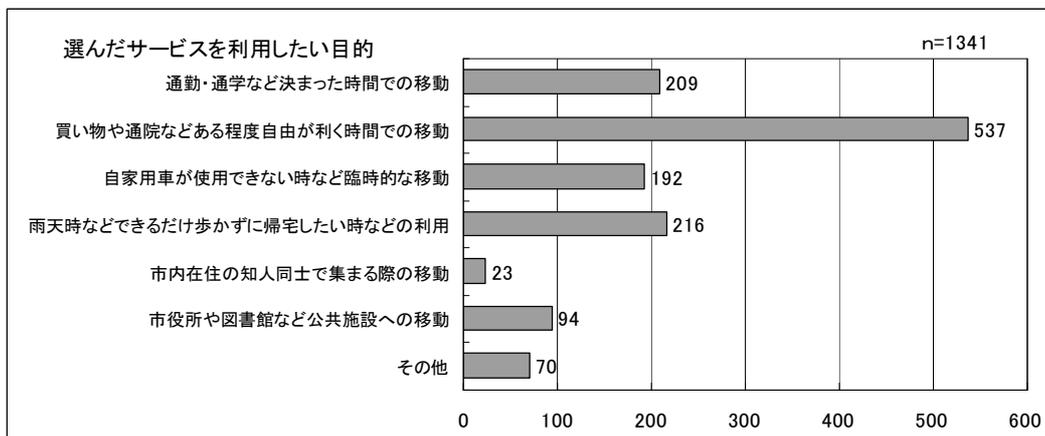
▲居住地別-望ましい新たな公共交通サービス

- ・「定時定路線型の交通サービス」を選んだ人の選択理由としては、「運行経路や運行時刻が決まっている」が約半数を占め、次いで「予約する必要がないから」が続いている。
- ・「デマンド型の交通サービス」を選んだ人の選択理由としては、「予約のある時間・場所しか運行せず無駄がないから」が約4割で、「乗りたい場所で乗れるから」が約3割となっている。



(2) 選んだサービスを利用したい目的

- ・ 選んだサービスを利用したい目的としては、多くが「買い物や通院などある程度自由が利く時間での移動」となっている。
- ・ 選んだサービス別に目的をみると、定時定路線型に比べてデマンド型は通勤通学など決まった時間での移動の回答割合が少なくなっている。



(3) 選んだサービスを利用したい時間帯

- ・選んだサービスを利用したい時間帯は、多くが「9～11時台」で、「早朝～8時台」と合わせて約7割となっており、帰宅時間帯よりも出発時間帯においての利用が望まれている。
- ・選んだサービス別に目的をみると、定時定路線型に比べてデマンド型を選択した人の方が、利用したい時間帯は少し遅めとなっている。

